

群を抜け 駆ける 世界を
GUNMA UNIVERSITY

2020 年度版
国立大学法人

群馬大学概要



基本理念	
学長からのメッセージ	1
GU Topics	2-5
キャッチコピー 目標	6
群馬大学の教育ポリシー	7-8
概要編	9-22
資料編	23-48

群馬大学 基本理念

- 理念 **1** 新しい困難な諸課題に意欲的、創造的に取り組むことができ、幅広い国際的視野を備え、かつ人間の尊厳の理念に立脚して社会で活躍できる人材を育成する。
- 理念 **2** 教育及び研究活動を世界的水準に高めるため、国内外の教育研究機関と連携し、世界の英知と科学・技術の粋を集め、常に切磋琢磨し、最先端の創造的な学術研究を推進する。
- 理念 **3** 教育及び研究の一層の活性化と個性化を実現するため、大学構成員の自主性、自律性を尊重し、学問の自由とその制度的保障である大学の自治を確立するとともに、それに対する大学としての厳しい自己責任を認識し、開かれた大学として不断の意識改革に務める。



群馬大学長 平塚 浩士

Hiroshi Hiratsuka

群馬大学は「地域に根ざし、知的創造を通じて世界の最先端へとチャレンジし、21世紀を切り拓く大学」を目指しています。昭和24年に制定された徽章は、大学が上毛三山に囲まれていることを表しています。上毛三山の中で荒牧キャンパスに一番近い赤城山は、広い裾野を持っていることから、群馬大学も赤城山のように広い知の基盤を形成し、その基盤の上にリージョナルからグローバルまで、さまざまなレベルの知の峰を作り、世の中に発信していく大学になりたいと思っています。

現在、世界は情報技術の急速な進化にともない、サイバー空間と現実空間が融合する超スマート社会へ移行する「大変革の時代」にあります。いつでもどこでも欲しい情報を引き出せるようになり、遠くの人との交流も容易になりました。AIやIoT、ビッグデータの活用などが社会変革の重要なキーワードとされる中、情報の活用において、情報の質の評価や人権の尊重に関する倫理的課題も指摘されるなど、解決すべき多くの課題が残されています。

その一方、2015年に国連サミットで採択されたSDGs（持続可能な開発目標）を2030年までに達成することが求められています。これは国際社会の共通目標です。SDGsは「貧困をなくそう」「飢餓をゼロに」など17の目標と169のターゲットから成っています。これらの目標を達成するためには、国際社会が一丸となりSDGs達成に向けて、問題解決に取り組む必要があります。本学は、SDGsの実現に向けた学問の探求及び教育研究の諸活動を通じて、豊かな人間性と高い専門能力を持った人材を養成すると共に、科学技術イノベーション（STI for SDGs）の更なる活用を推進していきます。

さて、本年4月1日から宇都宮大学との共同教育学部がスタートしました。学校現場では、時代の流れによりICTやプログラミング技術といった情報技術に精通する人材、そしてグローバル化に対応できる人材などの養成が求められており、時代に即した教育力への要望が高まっています。全国初の試みである共同教育学部は、それらの多様な要望に応える教育者輩出のため、そして両大学がもつ教育資源を相互に活用し、幅広く深い教育を提供するためのものです。群馬大学も宇都宮大学も、それぞれの地域に根ざした大学として、地域社会を支える役割を果たしていきたいと考えています。

また、数理データ科学教育研究センターを中核とした数理及びデータサイエンス教育の展開・普及や、食健康科学教育研究センターにおける共同研究及び社会人向け教育の拡充など、学部を越えた連携による取組も前進しております。

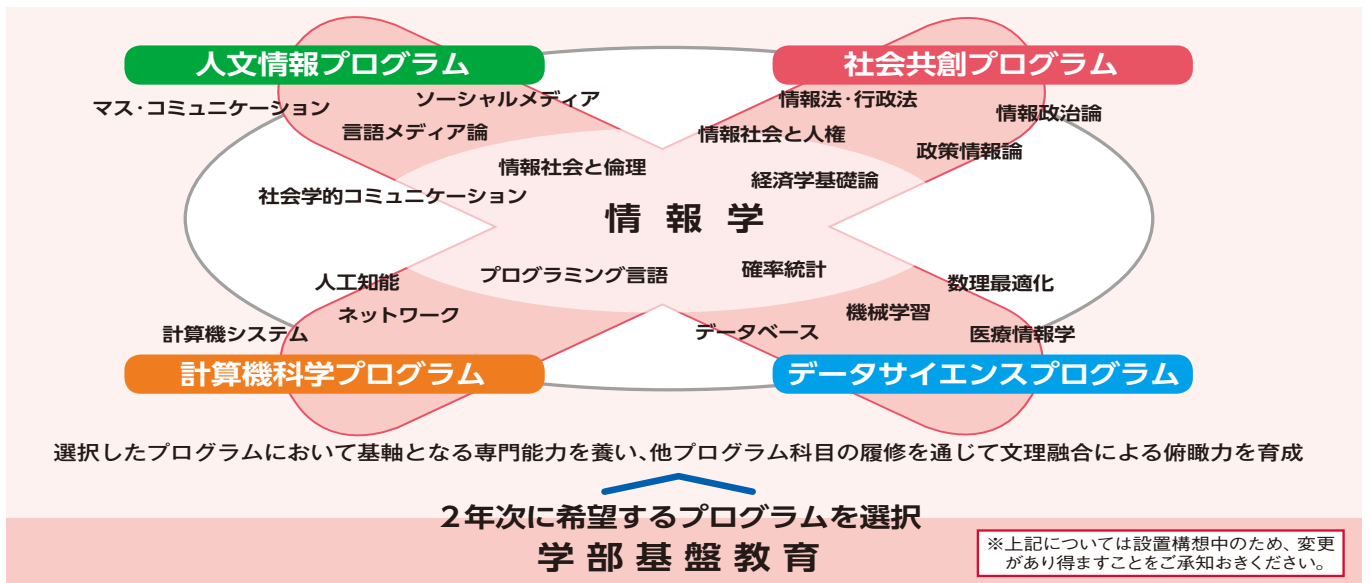
このように群馬大学では、強み・特色ある分野への戦略的な支援による大学の機能強化の推進、社会をより良い方向へと革新していく実力を身につけた人材の育成及び学術研究のさらなる発展に努め、社会からの期待に応えてまいります。

群馬大学では、2021年4月に、社会情報学部と理工学部電子情報理工学科情報科学コースを統合し、情報社会に人文・社会科学と情報科学の双方からアプローチし、次の社会を構想・実現する担い手を育成するため、**文理融合の新学部として「情報学部（仮称）」**（入学定員170人）設置を構想中です。

情報学部では、**4つのプログラム（人文情報、社会共創、データサイエンス、計算機科学）**を提供することで、文理のスペクトルを広くカバーした文理横断型の教育が可能となります。データサイエンスを基軸として、Society5.0を支え、IoT、ビッグデータ、統計的解析手法等のスキルをもつ、人文科学、社会科学と自然科学の知識を有した人材を育成します。

新学部が誕生！

設置構想中



理工学部が生まれ変わります！

設置構想中

群馬大学理工学部の「5学科」は、2021年4月から「2類」に統合します。

これにより**分野横断的な教育を強化し、IoT*技術や持続可能な社会**に向けた課題解決ができる人材を育成します。

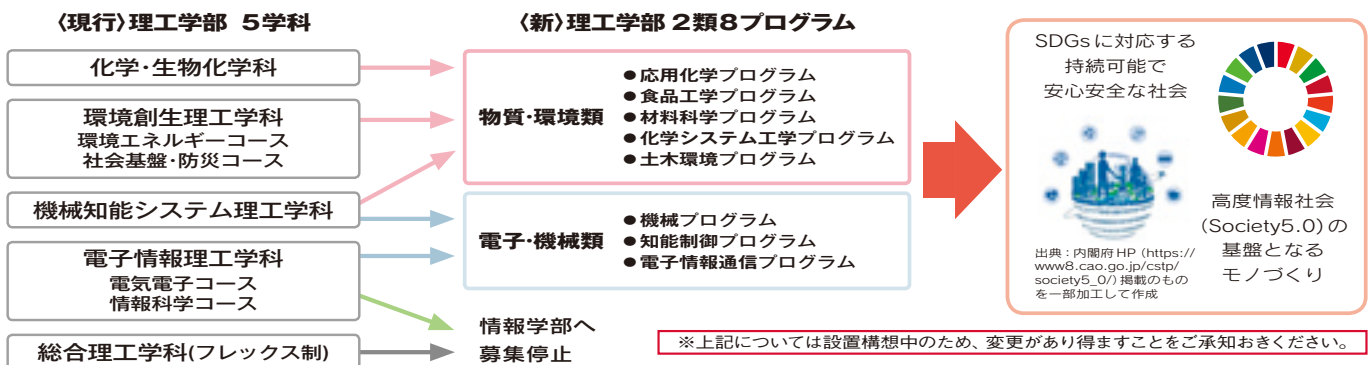
- 入学後はまず「類」に所属し、教養教育、理学系基礎科目、類基礎科目などを通して**幅広い知識**を身につけます。
- 2年次後期以降、自分の適性を考えながら「プログラム」を選択できます。
- 従来の伝統的な学術分野を背景とするプログラムに加えて、理工学の知識を基にした**食品工学**、化学と物理の融合した**材料科学**、電気と機械の融合した**知能制御**などのモノづくりのための情報技術を学べるプログラムがあります。

(注) *IoT (Internet of Thingsモノのインターネット) : スマートハウス、自動運転などいろいろな装置をネットでつなげて賢くしたもの。

▶何が変わる？

<p>5学科から2類 8プログラム編成へ —幅広い学びが可能—</p>	<p>問題解決型の授業の導入 —企業等と連携して、俯瞰的課題解決能力を身につける—</p>	<p>入試は類で実施 物質・環境類は数Ⅲが選択制(前期日程) (詳しくは学生募集要項を必ずご確認ください)</p>
--	--	--

▶現行5学科と2類8プログラムの関連性



群馬大学と宇都宮大学が全国初の共同教育学部を開設



2020年4月、群馬大学と宇都宮大学が連携して共同教育学部を開設しました。両大学の教育学部が、新しい学部生まれ変わりました。今年開設したこの学部は、「共同学部」として2番目、「共同教育学部」として全国初となります。

これまでの教育学部と何が違うのか、また何を目指して共同の学部にしたのか、といったことを以下で紹介いたします。

まず、内容の特徴です。共同教育学部では、学生が4年間で履修する授業の約40%を両大学合同の授業とします。といっても、学生が他方の大学に行く必要はありません。両大学間で授業を生中継します。前橋と宇都宮の80kmの距離を超えて、キャンパス間で質疑応答やディスカッションができるのです。

合同授業のメリットは2点あります。まず、両大学には多様な分野の教員がいるので、より専門性の高い授業を行えます。また、教員の多様な専門性を活かして、外国籍の子どもの教育、防災教育、環境教育、ジェンダー、ICT教育など、最新の教育課題と取り組む授業も開けます。

学生同士の学び合いも大きなメリットです。ディスカッションをしながらともに学ぶことで、一種の「異

文化交流」が実現します。

新型コロナウイルス対策で多くの大学がオンライン授業を実施しましたが、学生同士の交流には限界がありました。共同教育学部の合同授業は、教室と教室を結ぶことで確かな学び合いの場を創り出します。さらに、交流をより深めるため、合同合宿研修も行います。学生たちが、視野を広げ、刺激を与え合いながら学びの質を高めていく学部をつくります。

「共同教育学部」には制度上のメリットもあります。少子化が進む中で、教育学部も縮小を余儀なくされますが、共同教育学部は両大学あわせれば十分な教員がいるので、中学校全10教科の教員養成を続けることができます。

また、特別支援学校の教員免許では、両大学が共同することで、知的障害、肢体不自由、病弱、聴覚障害、視覚障害の5領域すべてをカバーできます。5領域とも免許が取れるのは、全国でも9大学だけです。

共同教育学部は、学校の先生をめざす学生が先生に必要な力を獲得できるよう、そして先生になってからも子どもたちとともに成長できるよう、多彩な教員たちが協力して充実した学びの機会を提供します。

グローバル人材の育成



GFLディーキン大学短期留学プログラム



留学フェア



Global Café



GUパスポート

グローバルフロンティアリーダー (GFL) 育成プログラム

群馬大学では、本学の学生が「自国及び他国の文化・歴史・伝統を理解し、外国語によるコミュニケーション能力を持ち、国内外において主体的に活動できる人」となるよう、グローバル人材の育成に力を入れています。

この一環として、GFL育成プログラムを設置し、共同教育学部と社会情報学部が連携した「教育・社情GFLコース」、及び医学部と理工学部が連携した「医理工GFLコース」の2コースにより、幅広い教養・外国語コミュニケーション能力の修得を中心とした教育を行うとともに、海外留学の経験を通して広い視野を持つ学生を育てています。

このうち社会情報学部及び理工学部の2学部では、GFL育成プログラムを入学時から取り組める体制を構築することを目的に、2019年度推薦入試より「GFL特別枠」を導入しました。

この特別枠での合格者は、本学の「卓越学生に対する授業料免除制度」の優先的適用の対象者となるとともに、1年次前期からGFLコースに所属して、短期海外研修などの活動に参加することになります。

学生の国際交流活動をサポート

群馬大学で行われる国際交流活動に参加している学生を「グローバルフレンズ (Global Friends)」と呼びます。国際センターでは、国際交流に関係するイベントやプログラムに参加した学生にグローバルフレンズ・ポイントを付与して、多数のポイントを獲得した学生を表彰するなど、国際交流活動に積極的に参加してもらえるよう工夫しています。

国際センターでは、学生が主体となって楽しく、またいろいろな体験ができる「Global Cafe」「English Cafe」といったイベントが定期的に行われています。ここでは、留学生による英語や中国語等でのおしゃべり、各国・地域の文化紹介、観光地や料理の話、さらには恋愛事情まで、幅広いトークが行われています。

また、国際センターでは「留学フェア」も行っており、交換留学、「トビタテ!留学JAPAN」、語学研修、語学能力試験対策など、さまざまなプログラム紹介や支援を行っています。

04

「まゆだまプラン-アドバンスト」女性研究者がつながり紡ぐイノベーション



好評な各種研究力アップ講座



近隣の放課後児童クラブとの連携

男女共同参画推進からダイバーシティ推進へ

群馬大学は、学生も含め次世代を担う優秀な人材育成に取り組み、多様性を尊重し、個性と能力を十分に発揮できる就学・就労環境の向上を目指しています。

文部科学省女性研究者研究活動支援事業「まゆだまプラン」(2013-2015年度)の実施から、文部科学省ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業「まゆだまプラン-アドバンスト」(2017-2022年度)へと事業を継承し、現在、次の3つの目標の達成に向けて取り組んでいます。

(1)優秀な女性研究者の採用と上位職増加

女性研究者在籍比率向上のために、女性上位職採用促進支援や研究リーダーを育成するための共同研究助成、定期的なジェンダー統計に基づく採用計画の見直しと履行を進めています。また、意識啓発のためのシンポジウムやFDセミナー、各種交流会を開催しています。

(2)ネットワークの構築とイノベーションの創出

研究力アップに役立つ各種セミナーの開催や県内高等教育機関との地域連携に力を入れており、2016年に「ぐんまダイバーシティ推進地域ネットワーク(現在16機関賛同)」を立ち上げて活動しています。

本ネットワークのHPでは、賛同機関の女性研究者のシーズ集も掲載しています。

(3)魅力ある環境整備と継続させる好循環の構築

両立支援として「研究活動支援制度」入試や学会時の託児等経費補助制度や近隣NPO法人与共同教育学部の連携による学童保育支援を行っています。また、各キャンパスの交流拠点である「まゆだま広場」では両立支援アドバイザーを中心として両立相談や各種活動を行っています。

2020年度からは更なるダイバーシティの推進を目的として、活動母体を「男女共同参画推進室」から「ダイバーシティ推進センター」へと改組し、上記の活動に加えてダイバーシティに関する教育や研究にもこれまで以上に注力し、そのための学内連携の強化と更なる環境整備に取り組めます。

本学では「まゆだま」は、今や男女共同参画のキーワードとなり、学長の強力なリーダーシップの下活動を進めて来ましたが、それが評価され、2015年5月には、県内の教育機関で初めて子育てしやすい事業所として厚生労働省群馬労働局より認定マーク「くるみん」を取得しています。

04

群を抜け 駆ける 世界を

Break your boundaries, go global from Gunma

群馬大学で思いきり学び、経験し、地域から世界に飛び出していった欲しいという、学生への想いを込めました。何かを気にすることなく自ら決めた道で目指す学問を追い、どこまでも伸び、どんどん抜きんでて良い。疾走する馬のような勢いと真っ直ぐさを持って、地域から世界を駆け回る人材を育てたいというイメージです。

目 標

教育

- (1) 学生の自主的で創造的な勉学を促進する学修環境を整えるとともに、学生が本来持っている潜在的能力とエネルギーを引き出すため最大限の支援を行う。
- (2) 教養教育においては、その重要性を認識し、全学的な協力体制の下、専門教育との連携を図りながら、幅広く深い教養、総合的な判断力、そして自然との共生を基盤とした豊かな人間性を涵養する。
- (3) 学部専門教育においては、教養教育との融合を図りつつ、各専門分野の最新の知見及び技術を修得しうる基礎的能力を育成し、豊かな知性と感性及び広い視野を持ち、学士力に裏打ちされた、社会から信頼される人材を養成する。
- (4) 大学院教育においては、高い倫理観と豊かな学識に立脚し、学部専門教育との関連を視野において、実践力を有する高度専門職業人及び創造的能力を備えた研究者を養成する。

研究

- (1) 専門分野において独創的な研究を展開するとともに、特に重点研究領域において国内外の大学・研究機関と連携して先端的研究を推進し、国際的な研究・人材育成の拠点を形成する。
- (2) 基礎的研究と応用的、実践的研究との融合を図り産業界や自治体等との共同研究・共同事業を推進し、その成果を広く社会に還元する。

社会貢献等

- (1) 地域の知の拠点として学内外の関係機関と連携した活動を通じて、地域の文化及び伝統を育み、豊かな地域社会を創造する活動を行うとともに、知の地域社会への還元を推進し、産業の発展に貢献する。
- (2) 地域医療を担う中核として医療福祉の向上にあたりるとともに、地域住民の多様な学習意欲や技術開発ニーズに応え、地域社会の活性化に貢献する。
- (3) 国際的視野の下で教育研究を充実する観点から、留学生の受け入れ及び本学学生の海外派遣を推進するとともに、海外の大学等との学術交流や教職員の国際交流を進める。

大学運営

- (1) 学長のリーダーシップの下で経営戦略を明確にし、大学構成員の能力を引き出し、自主性、自律性を持って効率的な大学運営に当たる。
- (2) 大学内での情報共有化と社会に対する大学情報の積極的な発信に努め、学内外への説明責任を果たす。
- (3) 不断の点検・評価と改革を推進し、大学の活力を維持発展させるとともに、大学の諸活動の質的向上を図る。

学部

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

<卒業認定・学位授与の条件>

1. 以下の学修達成目標及び所属する学部・学科・課程が定める学位授与の要件を満足していること。
2. 所定の年限在学し、かつ所属する学部・学科・課程が定める単位を修得していること。

<学修成果の目標>

専門的学識、技能

1. 所属する学部・学科・課程の専門分野において求められる専門的学識・技能を修得し、現実の諸課題に対してその活用ができる。

幅広い教養、学際性

2. 人間社会、歴史・文化、自然等についての幅広い教養と学際的理解に基づいて、様々な問題に対して多面的・総合的な判断ができる。

論理的思考力、コミュニケーション力

3. 論理的思考力とコミュニケーション能力を持ち、社会で生起する問題に対し主体的に取り組む意欲を持っている。

社会人としての自覚、国際性

4. 自然との共生を基盤とした豊かな人間性と広い視野及び社会的倫理観を持ち、社会から信頼され国内外で活躍することができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

<教育課程編成と教育方法>

全学的な協体制の下、教養教育と専門教育の融合を図り、幅広く深い教養、豊かな知性と感性、総合的な判断力、専門分野の基礎的能力を育成するため、学生の潜在能力を最大限引き出せる教育課程を編成し、実施します。本学の基本理念及び教育の目標を達成するために、本学の教育課程（カリキュラム）は以下の方針で編成されています。

1. カリキュラム・ポリシーを具現化するカリキュラム・マップに従った系統的な教育と、授業科目の目標・内容・教育方法・達成度（成績）評価方法等について詳述されたシラバスに基づいた教育を実施し、アクティブ・ラーニング等の学生の自主的な学修意欲を促す教育、授業時間外自己学修や学修の振り返りを促す教育等を幅広く行う。
2. 学士課程教育においては、全学共通の教養科目及び専門科目を互いの融合を図りながら編成する。
3. 全学共通の教養科目は、学士力の育成の基礎となる教養基盤科目と、幅広く深い教養・総合的な判断力・豊かな人間性の涵養につながる教養育成科目の二つの科目群から構成される。個別の領域の知識を学ぶのではなく、それらを統合していく考え方の修得及び各学問分野に共通の思考・判断・表現法の修得につながる教育を行うことにより、学生が自らの教養と主体性を構築していくことを促し、また外国語も含めた汎用的技能の基盤を培い、アイデンティティの確立した知識人としての考え方ができる人材を育成する教育を行う。
4. 専門教育を学ぶ上で必須となる基礎的知識や技能の修得を目的に、高校教育と大学における専門教育との円滑な接合を助け、その分野の基本的リテラシーについて学ぶ教育を行う。また、専門分野に関連する分野についての基礎的理解と新しいアイデアを引き出すことに役立つ知識・技能の修得を図り、専門分野の知識・理解・技能の質の更なる向上を目指す教育を展開する。
5. 専門科目においては、次の能力の養成に向けた教育を行う。
 - (1) 専門分野の内容、社会的意義と限界を深く理解し、他者に説明・表現できる能力
 - (2) 専門分野に関係する諸分野についての基礎的理解があり、客観的な評価ができる能力
 - (3) 自らの専門分野の視点から現代世界が直面する諸変化の特性・特質を理解し、生起する諸課題について探究し、課題解決に実践的に取り組んでいくことができる能力

<学修成果の評価>

シラバスに記載の達成度（成績）評価方法に基づいて行います。

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

<入学者に求める能力・資質>

群馬大学の理念、教育の目標に賛同し、本学の教職員と共に学術研究の成果を地域に還元し、豊かな地域社会・国際社会の創造に貢献していく意欲にあふれ、以下の能力・意欲を持つ人を求めています。

1. 高等学校の教育課程についての総合的な理解と大学教育を受けるにふさわしい基礎学力がある。
2. 専門分野を学ぶ上で必要な基礎知識と強い探究心、コミュニケーション能力を持っている。
3. 主体的に学ぶ姿勢と、論理的で柔軟な思考能力を持っている。
4. 知的好奇心が旺盛で、新しい課題に積極的に取り組む意欲がある。
5. 高い志と豊かな発想力を持ち、未来を切り開く夢と情熱を持っている。
6. 地域社会や国際社会に貢献する意欲とリーダーシップを持っている。

<入学者選抜の方針・方法>

群馬大学は、本学で学びたい学生に対し、その多面的な能力を評価し選抜するために、多様な受験機会・入学試験を提供します。また、本学の国際化推進基本計画に基づいて、海外からの留学生を積極的に受け入れる方針の下、受験機会を提供します。

本学の教育の目標、求める能力・資質に合致する学生を選抜するために、一般入試（前期・後期）の他に、特別入試として総合型選抜入試、学校推薦型選抜入試、帰国生入試、社会人入試、私費外国人留学生入試、3年次編入学試験等の入学試験を実施します。本学の入学試験では、それぞれの学部・学科・課程の専門・特性に合わせて、大学入学共通テスト、個別学力検査、実技等試験、調査書、活動歴、面接、小論文等を組み合わせて、総合的に合否を判定します。

大学院

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

幅広く豊かな学識に立脚し、専門分野において創造性豊かに自立して研究活動を実践でき、高度な専門性・国際性を必要とする職業を担うための能力を身に付け、研究者・技術者・高度専門職業人としての倫理観を身に付けている人物で、各研究科・学府が課程又は専攻ごとに定めた修了要件を満たした者に、学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

国際的に活躍できる、創造的能力を備えた研究者及び実践力を有する高度専門職業人を養成するため、専門分野における基礎的素養を涵養し高度な専門的知識及び能力を修得させるよう、各研究科・学府の課程又は専攻の教育目標の達成に向けた体系的な教育課程を編成し、実施します。

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

各研究科・学府が課程又は専攻ごとに求める学力・能力を持ち、研究や実践によって、人類社会の発展に貢献する意欲のある人を受け入れます。

概要編

Contents

概要編

学部	10–11
大学院・専攻科	12–14
附属施設	15
共同教育学部附属学校園、医学部附属病院	15
教育・研究関連施設等	16–20
生体調節研究所、総合情報メディアセンター	16
大学教育・学生支援機構	17
研究・産学連携推進機構	18
重粒子線医学推進機構	19
学内共同教育研究施設等、共同研究拠点等	20
国際交流	21
地域・社会との連携	22

共同教育学部(荒牧地区)

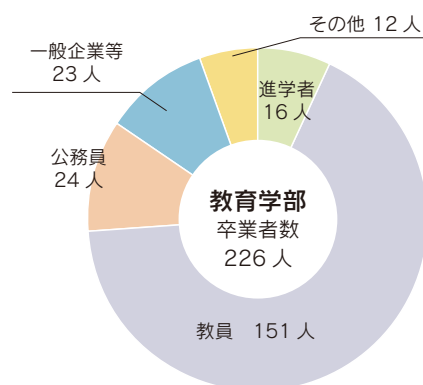
共同教育学部は、新しい時代の学校教育を担う教員、中でも小学校・中学校・特別支援学校の教員を養成することを主な目的としている。学校教育をめぐる多様な課題について、柔軟かつ効果的に取り組むことのできる高度な専門的知識・技術と豊かな人間性を身に付けた実践的指導力のある教育者の養成を目指している。



教育実習

課程	系	専攻	講座
学校教育教員養成課程	人文社会	国語、社会、英語	国語教育、社会科教育、英語教育
	自然科学	数学、理科、技術	数学教育、理科教育、技術教育
	芸術・生活・健康	音楽、美術、家政、保健体育	音楽教育、美術教育、家政教育、保健体育
	教育人間科学	教育、教育心理、特別支援教育	学校教育、特別支援教育

学部卒業者の進路状況



社会情報学部(荒牧地区)

高度情報社会の到来によって、我々の日常生活はもとより、社会のあらゆる分野に大きな変化がもたらされた。この変化を多角的・総合的に把握し、そこに発生する各種の問題を解決することが求められている。

本学部では、高度情報社会の課題を発見し、その解決策を科学的な思考と実践的な情報処理やデータの収集・分析によって提案できる人材を養成する。

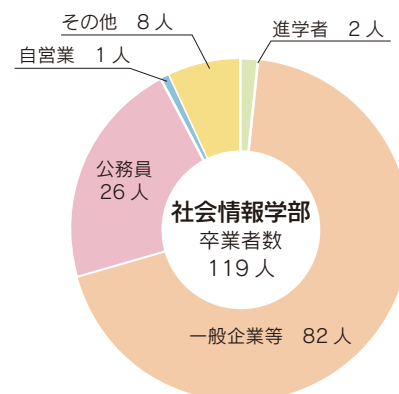


学生が制作・編集した「学部案内パンフレット」

学科	専門科目	特別選抜(入学後)
社会情報学科	● コア科目 社会情報学入門科目、メディア科目、コミュニケーション科目、情報科目	
	● リサーチスキル科目 研究方法科目、データ解析科目、情報処理スキル科目	データ解析プログラム(10名)
	● コミュニケーション科目 外国語コミュニケーション科目、表現スキル科目	教育・社情GFLコース(10名)
	● プロジェクト科目	
	● ディレクション科目 メディアと文化、公務と法律、経済と経営	

GFL: グローバルフロンティアリーダー

学部卒業者の進路状況



医学部(昭和地区)

医学科は、医学と医療が自然科学の上に成り立ち、かつ社会の中で人を対象として行われるものであることを理解し、科学的知(Science)、倫理(Ethics)、技能(Skill)の3つの面(SES)にわたって生涯自己研鑽を続けることができる人材の育成を目的としている。この目的を達成するために、SESを掲げたアウトカム基盤型教育を推進し、「生涯自己研鑽を続けることができる、優れた医師、医学研究者、医療行政官、医学教育者」の養成に努め、医学・医療と地域社会に貢献することを目指している。

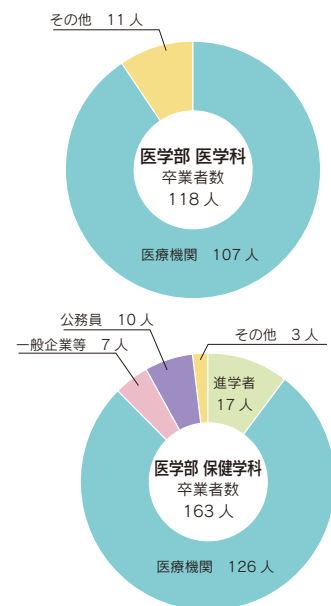
保健学科では、「高度化・専門化する保健医療の担い手となる、看護師、保健師、助産師、臨床検査技師、理学療法士及び作業療法士の育成」、「医療技術の学問体系の確立と発展に寄与しうる専門職の育成」、「チーム医療においてリーダーシップを発揮できる人材の育成」、「国際社会で活躍できる専門職の育成」の4つの理念・目的を達成するため、総合的で先進的な保健学教育・研究を展開している。

課 程		講 座 等
医学科		基礎医学教育部門、臨床医学教育部門、医学教育政策・支援部門
保健学科	看護学専攻	看護学講座
	検査技術科学専攻	検査技術科学講座
	理学療法学専攻	理学療法学講座
	作業療法学専攻	作業療法学講座



実習風景

学部卒業者の進路状況



理工学部(桐生地区)

理学に根ざした俯瞰的な物の見方、考え方を身に付け、工学に根ざした実践的・独創的な課題解決能力を養う理工学教育を行い、個人の発想や知的好奇心を尊重し、未知の分野に挑戦する活力と創造性を育むとともに、国際コミュニケーション能力を備え、世界を舞台に研究者・技術者として活躍できる人材を育成することを目的としている。

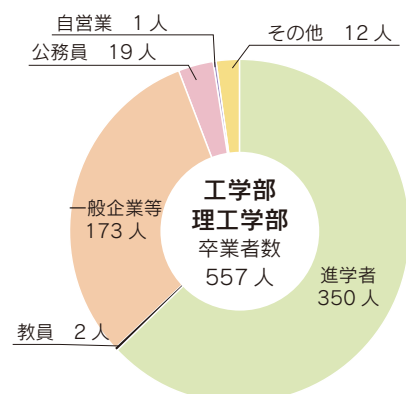
学 科	分 野
化学・生物化学科	基礎理学系分野、化学・生物学統合分野、物質科学分野、生物科学分野、計測科学分野
機械知能システム理工学科	基礎理学系分野、機械知能システム理工学統合分野、エネルギーシステム分野、マテリアルシステム分野、メカトロニクス分野、インテリジェントシステム分野
環境創生理工学科	基礎理学系分野、環境創生理工学統合分野、社会基盤工学分野、化学工学分野、環境科学分野
電子情報理工学科	基礎理学系分野、電子情報理工学統合分野、電子デバイス分野、電気工学分野、情報処理・通信分野、計算機科学分野
総合理工学科※	基礎理学系分野、化学・生物学統合分野、機械知能システム理工学統合分野、環境創生理工学統合分野、電子情報理工学統合分野

※夜間主コース(フレックス制)



授業風景

学部卒業者の進路状況



教育学研究科 (荒牧地区)

教育学研究科には、修業年限が2年の専門職学位課程（教職大学院）が置かれている。学部段階での教育を基礎にして、学校現場で実践的指導力を発揮できる（身につけた）教員を養成することを目的としている。

専門職学位課程

専攻	コース
教育実践高度化専攻	教職リーダー 授業実践開発 特別支援教育実践開発



授業風景



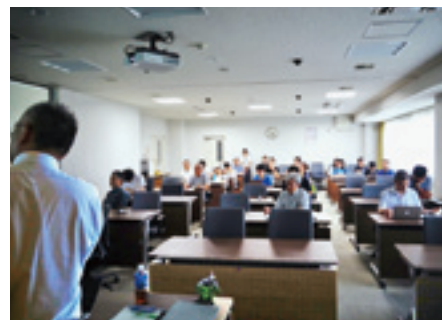
町探検に同行

社会情報学研究科 (荒牧地区)

社会情報学の深化と発展を目指し、行政、企業、NPOなどの組織における意思決定に具体的に関与できる「高度専門職業人」の育成と、人間と情報社会の諸問題や各組織のあり方を考究できる「実践的研究者」の養成を目的としている。

修士課程

専攻	コース
社会情報学専攻	メディア社会構想コース (メディア系、社会・組織系)
	社会情報システムデザインコース (社会モデリング系、社会実証系)



修士論文発表会

医学系研究科(昭和地区)

科学的知(Science)、倫理(Ethics)、技能(Skill)を探究し、それらの動的な融合から世界の医科学をリードする教育・研究・医療拠点を構築することを目標としている。先端的生命科学研究をさらに推進させ、疾病の病因究明と体系的治療戦略を実践する医学研究者を育成する。また高い倫理観と卓越した臨床研究能力を持つ医療人を育成するとともに研究成果の社会還元を促進していく。



実験風景

修士課程

専攻	
修士課程	生命医科学専攻

博士課程

専攻	領域	講座
博士課程 医科学専攻	基礎・基盤医学	機能形態学、生体構造学、分子細胞生物学、生化学、応用生理学、脳神経再生医学、薬理学、遺伝発達行動学、細菌学、生体防御学、公衆衛生学、法医学、医学哲学・倫理学
	臨床医学	【内科学講座】 循環器内科学、呼吸器・アレルギー内科学、消化器・肝臓内科学、内分泌内科学、腎臓・リウマチ内科学、血液内科学、脳神経内科学 【総合外科学講座】 循環器外科学、呼吸器外科学、消化管外科学、乳腺・内分泌外科学、肝胆膵外科学、小児外科学 腫瘍放射線学、放射線診断核医学、神経精神医学、麻酔神経科学、救急医学、総合医療学、リハビリテーション医学、臨床検査医学、病態病理学、病理診断学、小児科学、産科婦人科学、泌尿器科学、脳神経外科学、眼科学、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学、皮膚科学、形成外科学、整形外科、臨床薬理学、口腔顎顔面外科学、医療の質・安全学
		【協力・連携講座】 ●医学部附属病院 臨床試験学、情報医療学 ●生体調節研究所 高次細胞機能解析学、代謝・内分泌学、遺伝情報・発現学 ●重粒子線医学研究センター 重粒子線医学 ●未来先端研究機構 病態情報解析学 ●食健康科学教育研究センター 食健康科学 ●数理データ科学教育研究センター 数理データ科学 ●量子科学技術研究開発機構高崎量子応用研究所 生体機能解析学

保健学研究科(昭和地区)

保健学に関する知識・技術・研究基礎能力を更に高め、個人及び集団の健康保持増進や生活の質(QOL)向上のための独創的あるいは学際的な研究を進め、幅広い学識と高度な専門性、倫理性を身につける。

博士課程

専攻	ユニット又は領域
博士前期課程(修士)	保健学専攻
博士後期課程(博士)	
	基礎保健学ユニット、応用保健学ユニット、地域・国際保健学ユニット
	看護学領域、生体情報検査科学領域、リハビリテーション学領域

理工学府(桐生地区)

現在大学が社会から求められている、多様化・複層化が進化する産業活動における諸課題に対して俯瞰的なものの見方と、総合的実践力独創力を発揮し、社会からのニーズに応えることのできる高度理工系専門人材を育成することを目的としている。

課程	専攻	分野
博士前期課程 (修士)	理工学専攻	<ul style="list-style-type: none"> ●物質・生命理工学教育プログラム 物質・生命理工学統合分野、物質科学分野、生物科学分野、計測科学分野 ●知能機械創製理工学教育プログラム 知能機械創製理工学統合分野、エネルギーシステム分野、マテリアルシステム分野、メカトロニクス分野、インテリジェントシステム分野 ●環境創生理工学教育プログラム 環境創生理工学統合分野、社会基盤工学分野、流域マネジメント工学分野、災害社会工学分野、エネルギー創生分野、環境システム制御分野、バイオプロセス開発分野、環境材料創製分野 ●電子情報・数理教育プログラム 電子情報理工学統合分野、電子デバイスシステム分野、計測・制御・エネルギー分野、情報通信システム分野
博士後期課程 (博士)	理工学専攻	<ul style="list-style-type: none"> ●物質・生命理工学領域 ●知能機械創製理工学領域 ●環境創生理工学領域 ●電子情報・数理領域



授業風景



授業風景



授業風景

特別支援教育特別専攻科(荒牧地区)

特別支援教育特別専攻科は大学の学部での学修を基礎にして、特別支援教育に関する高度な専門的教育を行い、社会からのニーズに応えられる有能な職業人の養成を目指している課程で修業年限は1年である。

専攻	コース
重複障害教育専攻	一種免許状取得、専修免許状取得



講義風景: 盲ろう疑似体験の様子

共同教育学部附属学校園(若宮・上沖地区)

幼児及び児童・生徒に対し、幼児教育、義務教育として行われる普通教育及びそれに準ずる教育等を施すとともに、それぞれに関する実践的研究や先導的研究を学部と協力して推進し地域の教育の充実・発展に寄与することや、共同教育学部学生の教育実習を実施することを目的としている。幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校がある。

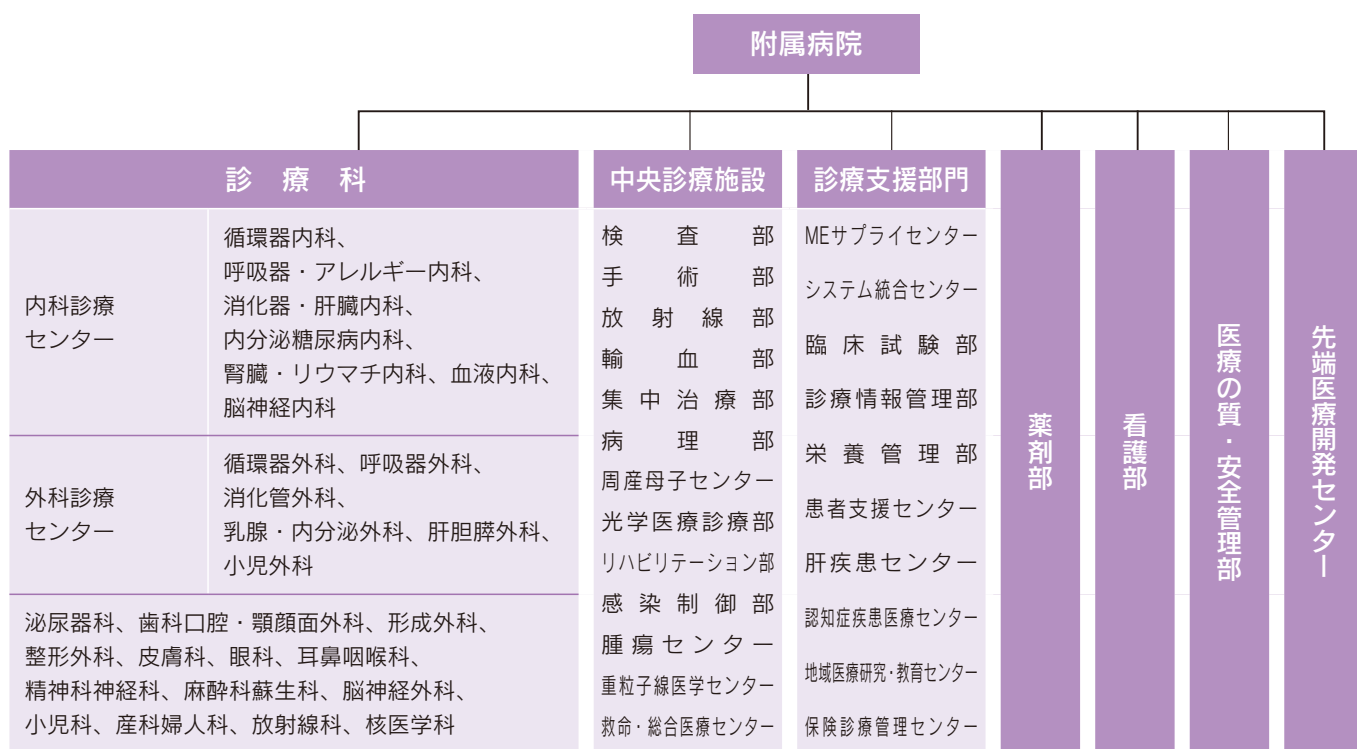


活動風景(附属幼稚園)

医学部附属病院(昭和地区)

診療を通じて医学の教育及び研究の向上を図るものである。

病院には、教育と診療と研究の3つの重要な責務がある。教育については、医学部等の要請による臨床実習及び卒業後の初期教育が主体であり、診療については、保険医療機関として地域医療に貢献するとともに、一般医療機関では行い難い高度医療を提供する医療機関として活動し、研究については、先進医療の開発を中心とした臨床研究を行うことが、それぞれ主体となっている。



医学部附属病院



医学部附属病院 ロビー

生体調節研究所(昭和地区)

生体調節研究所では、インスリンの分泌や作用の機構、膵臓インスリン分泌細胞の分化・再生、糖尿病・肥満症など生活習慣病の成因・病態生理の解明など、糖尿病関連の研究が盛んである。また、内分泌・代謝疾患の成因・病態の基盤となる、細胞内膜輸送、細胞間・細胞内シグナル伝達、エネルギー代謝・摂食調節、ストレス・炎症応答、エピゲノム制御といった、基礎的な研究分野でも大きな成果を上げている。これらの研究によって、生体調節の異常に基づく疾患の発症予防・病態制御に寄与したいと考えている。



生体調節研究所

研究部門

研究部門	分野
生体情報部門	遺伝子情報、細胞構造、代謝エピジェネティクス、生体膜機能
病態制御部門	遺伝生化学、個体統御システム、分子糖代謝制御

附属研究施設

附属研究施設	分野
生体情報ゲノムリソースセンター	ゲノム科学リソース、疾患ゲノム研究
代謝シグナル研究展開センター	代謝シグナル解析、トランスレーショナルリサーチ
拠点研究支援センター	—



研究活動の様子(細胞構造分野)

総合情報メディアセンター

総合情報メディアセンターは、本学の教育研究支援を目的とした学術情報の収集と情報発信並びにIT基盤の整備・運用を行っている。図書館部門は、資料の整備・提供に加えて、学生のための「学びの場」としてラーニングcommonsを設置するとともに、地域の「学びの場」として学外者へのサービスにも力を入れている。情報基盤部門は、CIO(情報化統括責任者)のもと情報化を進めるとともに、情報セキュリティインシデントへの対応を迅速かつ一元的に行うことを目的として全学の危機管理室に設置された「群馬大学CSIRT」と緊密に連携し、情報セキュリティの確保において重要な役割を果たしている。

図書館部門

図書館部門は、中央図書館(荒牧地区)、医学図書館(昭和地区)及び理工学図書館(桐生地区)の3館が連携・協力しながら、図書提供・保存のほか、電子的資料に対応するため、「群馬県地域共同リポジトリ(AKAGI)」の構築、電子ジャーナルや各種データベースの整備を行っている。各館に整備したラーニングcommonsにおいて講演会や展示会を定期的に開催するとともに、地域交流のため中央図書館内のギャラリー利用を学外者にも開放している。

蔵書数(2020年4月1日現在) (単位:冊)

区分	中央図書館	医学図書館	理工学図書館	計
和書	276,112	71,955	85,551	433,618
洋書	55,668	60,035	67,900	183,603
計	331,780	131,990	153,451	617,221



中央図書館(荒牧地区)

情報基盤部門・事務情報部門

情報基盤部門は、全学の組織である群馬大学CSIRTと連携し、セキュリティが確保され安心して使いながら使いやすいIT環境の実現に努めている。

荒牧地区、昭和地区、桐生地区に職員を配置し、電子メールなどのITサービスの提供、学内LANの管理運用、授業や演習等に利用される教育用端末の整備とともに、利用者へのサポートを行っている。

事務情報部門は、GUNetを利用して事務情報ネットワークを整備し、情報基盤部門と連携し、事務の効率化・情報化を推進している。

■ 全学ソフトウェアライセンス(ソフトウェアの無償配布)

学生、教職員が全学的に使用するソフトウェアの標準化と、その整備に係る経費の節減並びにソフトウェアの不正コピーの防止を組織的に取り組むことでのコンプライアンス対策等を目的として、マイクロソフト社との間で「マイクロソフト包括ライセンス契約」を締結している。当該契約により本学の教職員及び学生は、個人のパソコンにも無償でWindowsやOfficeの最新バージョンを利用することができる。

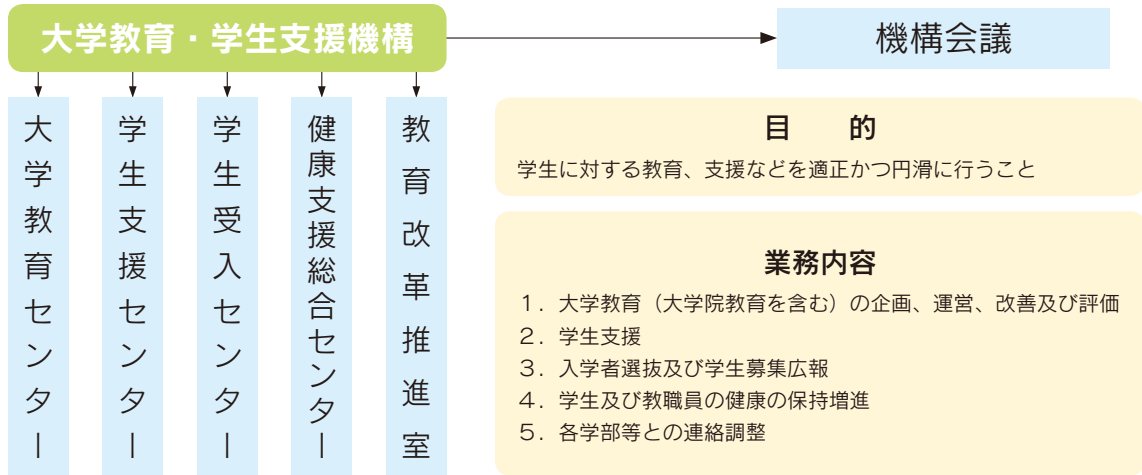
■ 群馬大学学術情報ネットワーク(GUNet)

教育研究に不可欠な情報ネットワーク環境として、全学的な認証ネットワークを提供している。認証ネットワークでは、学生・教職員に発行される全学認証アカウントを使って認証することにより、簡単かつ安全にネットワークを利用することができる。

※総合情報メディアセンターでは、上記に加え様々なサービスを提供している。サービスの詳細については、ホームページを参照。

大学教育・学生支援機構

大学教育・学生支援機構は、大学教育センター、学生支援センター、学生受入センター、健康支援総合センター及び教育改革推進室からなる。



大学教育センター

目的

全学に共通する大学教育の基盤を整備するとともに、教養教育を円滑に運営すること

業務内容

1. 大学教育の教育内容及び教育方法の改善
2. 大学教育の運営及び評価

学生支援センター

目的

学生の生活及び就職活動に対する支援並びに修学に係る相談等を適切かつ円滑に行うこと

業務内容

1. 学生生活の支援
2. 学生相談の企画、立案及び実施
3. 学生の就職指導の企画、立案及び実施
4. 障害学生の修学支援

学生受入センター

目的

学生募集に係る広報の推進並びに入学者選抜の改善に係る調査及び研究並びに入学者選抜に係る情報の適正な管理を行うこと

業務内容

1. 学生募集に係る広報活動
2. 入学者選抜方法の改善
3. 入学者選抜に係る調査及び研究
4. 入学者選抜に係る情報の保護、管理及び開示
5. 入学者選抜に係るリスクマネジメント
6. 大学入学共通テスト

健康支援総合センター

目的

学生及び教職員の心身の健康の保持増進を図ること

業務内容

1. 健康診断の企画、立案及び実施
2. 健康診断に係る指導助言
3. 身体的及び精神的（カウンセリングを含む）な健康相談
4. 応急措置
5. 健康に係る調査及び研究
6. 感染症の予防及び環境衛生に係る指導助言

教育改革推進室

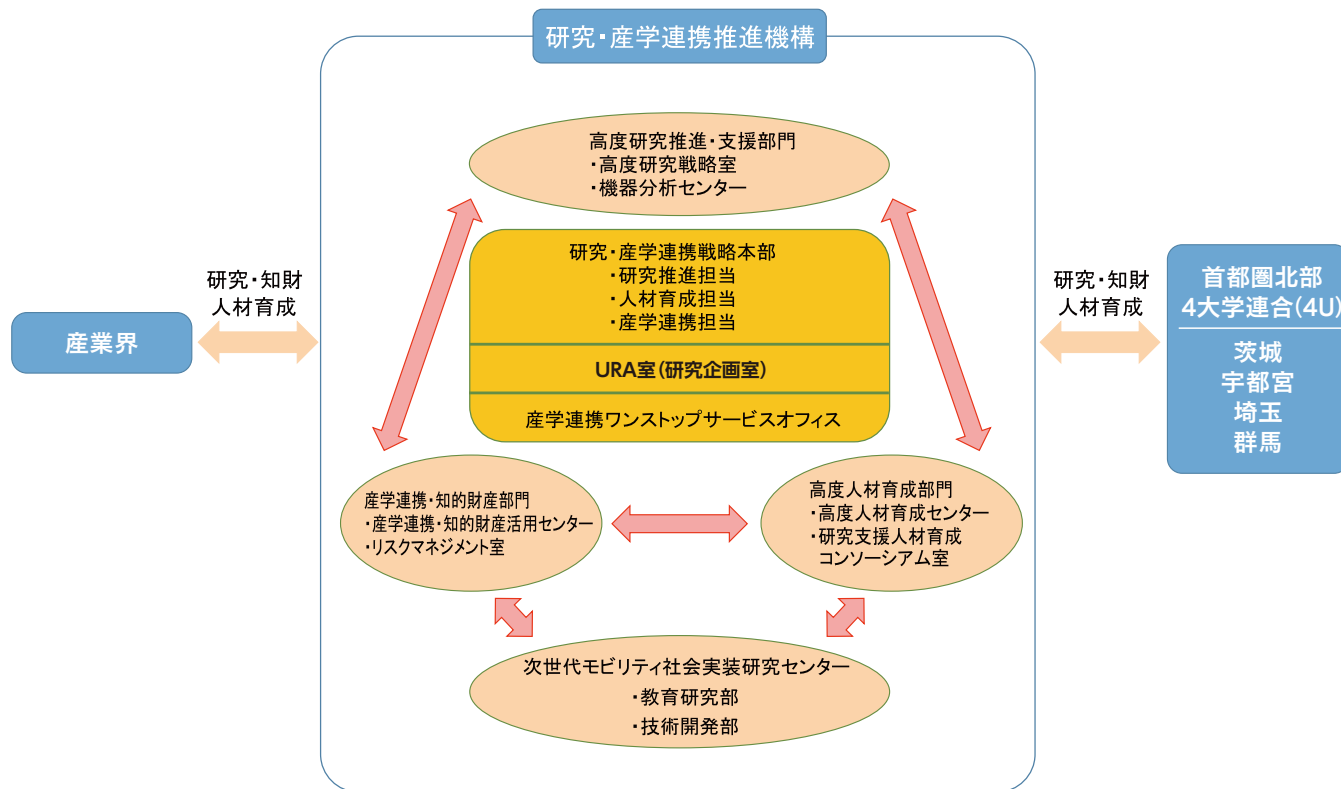
目的 大学教育全体の改革を推進していくこと

業務内容

1. 教育実施体制及び教育方法等に関する企画立案
2. 地域と連携した教育に関する企画立案
3. 社会ニーズを踏まえた教育プログラムの企画立案
4. アクティブラーニングに関する企画立案

研究・産学連携推進機構

研究・産学連携推進機構は、研究・産学連携戦略本部、高度研究推進・支援部門、高度人材育成部門、産学連携・知的財産部門、次世代モビリティ社会実装研究センターから組織されており、大学の基本理念に基づき、優れた研究成果を生み出すための体制を強化し、知的財産の管理・運用等を円滑に行い、もって本学における学術研究の一層の高度化とその成果を広く社会に還元することを目的としている。



研究・産学連携戦略本部

◇URA室（研究企画室）

(1) 研究活動等の調査・分析 (2) 科学技術・学術政策等の動向把握等 (3) 競争的資金等に係る情報収集・分析及び申請支援 (4) プロジェクト研究推進の支援 (5) 産学官連携推進の支援

◇産学連携ワinstopサービスオフィス

(1) 外部機関等からの相談窓口及び運営 (2) 外部機関等からの産学連携に係る依頼事項等の調整 (3) 外部機関等との技術移転活動の調整及び成果の検証 (4) 機構の産学連携組織間における産学連携活動の進捗等の情報共有

高度研究推進・支援部門

◇高度研究戦略室

(1) 研究戦略の策定 (2) 先端研究の推進 (3) プロジェクト型研究の推進 (4) 競争的研究資金獲得のための企画立案 (5) プロジェクトに係る研究設備マスタープランの策定

◇機器分析センター

(1) 機器の管理運用 (2) 利用者に対する講習及び技術指導 (3) 分析、測定及び解析 (4) 分析技術の研究開発、情報収集及び情報提供 (5) 外部依頼分析、技術相談 (6) 共同利用に係る研究設備マスタープランの策定

高度人材育成部門

◇高度人材育成センター

(1) ポストドクター(PD)及び博士課程学生の実践的能力の開発 (2) PDのインターンシップの実施 (3) PD及び博士課程学生と企業等との交流及び連携 (4) 教職員のキャリアパスに係る意識啓発 (5) PD及び博士課程学生のキャリア開発プログラムの構築 (6) 創業者及び創業支援人材の育成

◇研究支援人材育成コンソーシアム室

(1) コンソーシアムの事務局 (2) コンソーシアム事業の実施

産学連携・知的財産部門

◇産学連携・知的財産活用センター

(1) 民間機関等との共同研究及び受託研究 (2) 知的財産の創出、取得、管理及び技術移転 (3) 知的財産情報の発信 (4) 大学発ベンチャー企業の創出及び支援 (5) 首都圏北部地域における知的財産の技術移転支援 (6) 地域社会における学術研究の交流

◇リスクマネジメント室

(1) 利益相反に係る適切な管理 (2) 外国為替及び外国貿易法に基づく輸出管理に係る適切な管理 (3) 学内外の関係する機関等との連絡調整 (4) 教職員等に対する啓発活動

次世代モビリティ社会実装研究センター

次世代自動車産業振興に資する産学官金連携イノベーションの拠点形成を目指し、次世代モビリティシステムの社会実装研究と開発及び高度人材育成を目的に (1) 次世代モビリティの研究開発に関すること、(2) 次世代モビリティに係る学生及び社会人に対する人材育成に関すること。

重粒子線医学推進機構

重粒子線医学にかかる研究、教育、診療活動を適正かつ円滑に推進することを目的としている。

重粒子線医学研究センター

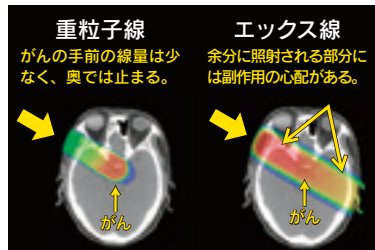
重粒子線加速器を導入し、基礎／臨床放射線医学研究ならびに重粒子線治療技術の高度化研究開発を推進するとともに、この分野を担う臨床腫瘍医、医学物理士、放射線生物学者等の養成を行うことを目的としている。

重粒子線医学センター

重粒子線がん治療の臨床試験を推進するとともに、重粒子線治療を含む集学的がん治療の実践により、地域医療から国際医療まで幅広く貢献することを目的としている。

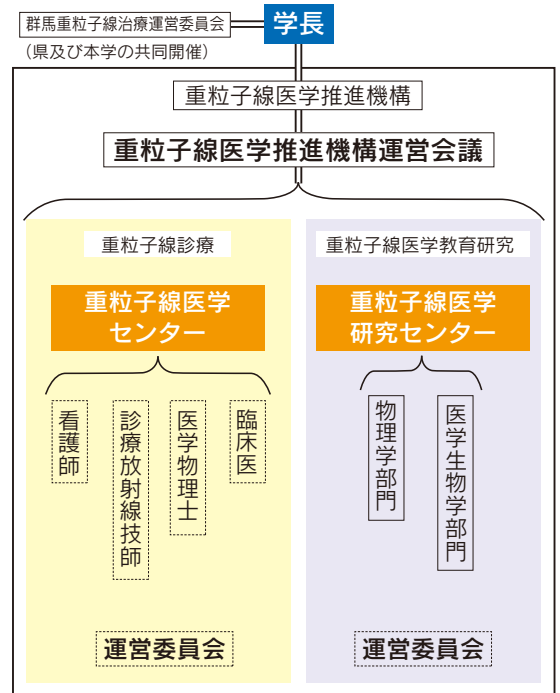


重粒子線医学センター（重粒子線照射施設）



線量分布の比較（重粒子線とX線）

重粒子線医学推進機構組織図



教育・研究関連施設等



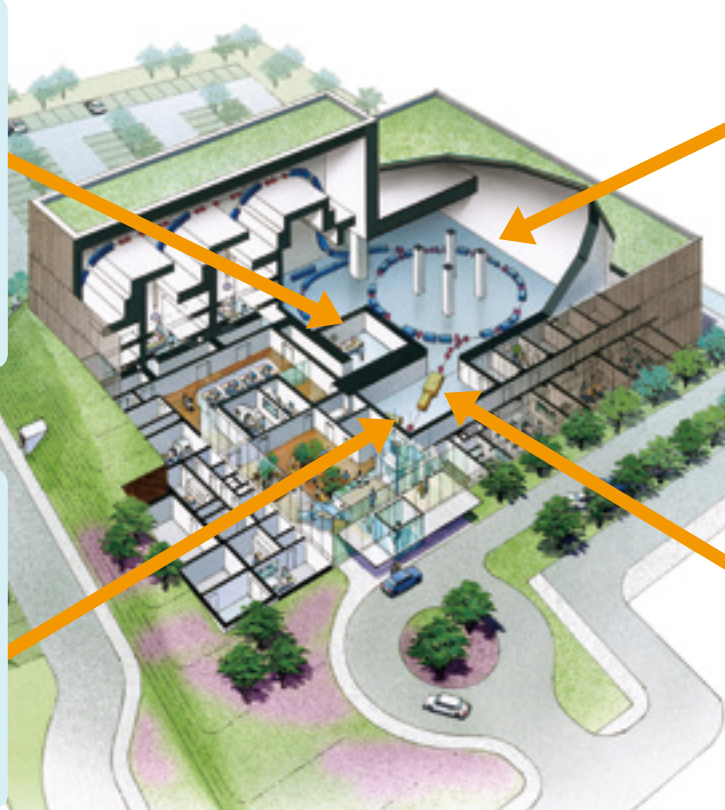
治療室

加速された炭素イオンはここで患者さんに照射される。重粒子線照射中に痛みは感じない。



イオン源装置

ここで化学物質の中の炭素原子から炭素イオンが作られる。



シンクロトロン加速器

線形加速器から送られた炭素イオンはシンクロトロンの中を周回している間に光速の70%まで加速される。



線形加速器

炭素イオンを主加速器であるシンクロトロンに送り込む前に予備的な加速を行う。

本重粒子線照射施設は、縦横約45m×65m、高さ約20mの建築物で、その中に、重粒子（炭素イオン）を最高で光の70%程度の速度まで加速する直径約20mのシンクロトロン加速器と3治療室ならびに付帯設備を持つ。この治療装置は、重粒子線治療の普及を目指して小型化された最新の装置であり、国際的な注目を集めている。

本学では、群馬県との共同事業として、2006年度にこの施設の建設に着手し、2010年3月に治療を開始し、同年6月から限局性固形がんに対する先進医療を開始した。設置後の運営においては、県内医療機関と連携して、施設を効果的に活用し、群馬医療圏に高度な統合的がん医療体制を構築し、重粒子線照射施設を全国の諸地域に配置する場合の施設活用のモデルとなることを目指している。

2016年4月から、重粒子線治療は切除非適応の骨軟部腫瘍（骨や筋肉、血管、皮下組織などの軟部に発生する腫瘍）、前立腺がん、頭頸部がんが順次保険適用となっている。

学内共同教育研究施設等

国際センター

国際センターは、群馬大学の国際化事業を一元的に行う全学的な組織として2017年5月に設置された。教育・研究両面での国際交流と学生国際交流等を推進するため、国際交流協定の締結、国際交流に関するプロジェクトの推進をはじめ、外国人留学生のための日本語等の教育プログラムの実施、修学・生活に関する指導や相談を行っている。また、学生の海外派遣等に関する助言及び支援を行うことを目的としている。



日本伝統文化実践「邦楽器演習」

数理データ科学教育研究センター

数理データ科学教育研究センターは、基盤支援に向けて、情報数理及びデータ科学を中心とした情報学分野の教育を展開するとともに、これらの素養を持った人材の育成及び研究の推進を図ることを目的として、2017年12月に設置された。

センター内の3つのユニット「情報数理ユニット」「データ科学ユニット」「レギュラトリーサイエンスユニット」が連携して教育研究に取り組むことで、社会のあらゆる分野において実践的に活躍するための数理的思考力を持った人材の育成、ICTを活用した教育手法の開発研究及びビッグデータを含む実データを用いた実践的な研究等を進める。



数理・データサイエンス教育に関するFDの様子

食健康科学教育研究センター

食健康科学教育研究センターは、「食と健康」に関わる研究の推進及び専門人材の育成により、大学の教育研究及び社会貢献活動等の向上に資するとともに、地方公共団体及び地方産業界等と連携して、地域産業の振興及び社会における健康増進に寄与することを目的として2017年12月に設置された。

本学は、医学系研究科、保健学研究科における食の安全安心に係る分析機能、生体調節研究所における生活習慣病の予防開発機能、理工学府における食品開発・先端加工・製造技術の教育研究機能、さらに教育学部や社会情報学部における食育、健康志向、ブランディングの教育研究機能等を有している。本センターが中心となり、これらの機能を活用して文理の広い分野における食と健康に係る教育研究及び地域貢献を行う。



国際シンポジウム講演の様子

未来先端研究機構

未来先端研究機構は、群馬大学が強みを持つ統合腫瘍学（重粒子線によるがんの治療開発等）や内分泌代謝・シグナル学（生活習慣病の病態解明等）、元素科学（炭素・ケイ素・フッ素の元素特性を活用したエネルギー開発）などの研究分野において世界水準の研究力を強化することを目的とし、先端的な研究組織として2014年4月に設置された。さらに、2019年10月には、機構内にウイルスベクター開発研究センターを設置し、難病の遺伝子治療を行うためのウイルスベクターの我が国の研究・開発拠点として取組を進めている。

グローバル化に対応するため、世界トップクラスの海外研究機関から研究者を招へいして海外ラボラトリーを設置し、国際共同研究を実施している。



元素科学研究部門の実験室の様子

ダイバーシティ推進センター

ダイバーシティ推進センターは、群馬大学の全ての教職員及び学生の基本的人権を尊重し、男女共同参画を推進すること、並びに全ての教職員及び学生がその能力を十分に発揮できるよう、全学的な視点からダイバーシティを推進することを目的として、2020年4月に設置された。

職場や大学運営の意思決定への男女共同参画を含むダイバーシティの促進と意識の醸成、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）を目指し、働き続けたい、学び続けたいと思える大学づくりへの貢献、及びこれらに関する地域や国内外との連携の促進を理念とした施策を実施している。

共同研究拠点等

内分泌・代謝学共同研究拠点（生体調節研究所）

内分泌・代謝学および関連領域において、臨床医学研究者を含む研究者コミュニティから要請された共同研究を、研究材料や解析技術の供与によって推進する。そして、その成果発表、研究交流を通じて、当該領域における研究者の育成に寄与する。



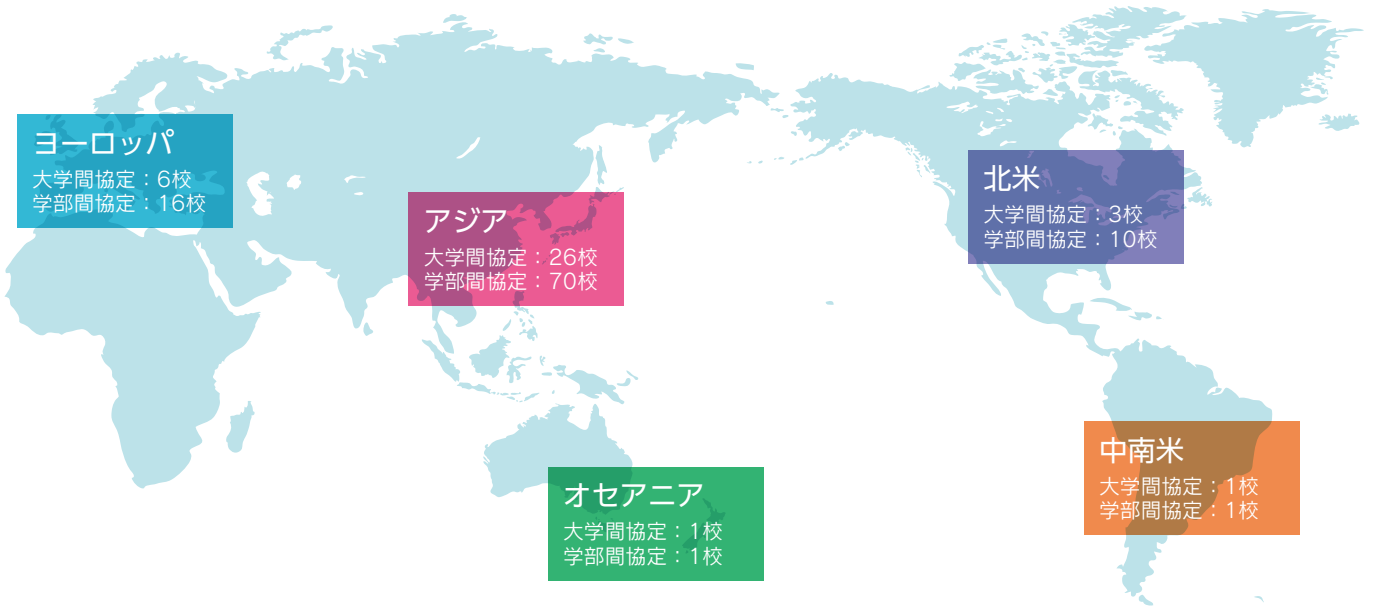
国際交流

国際的な学術・学生交流促進のため、群馬大学は世界各国の大学等と包括的な国際交流協定を多数締結し、研究者交流、学生の交換留学や短期研修プログラム等様々な交流を展開している。

2017年5月に国際センター（GUIC, Gunma University International Center）を設置し、国際戦略室のもと、群馬大学全体の国際化の方針や事業計画等を企画・立案・決定し、学生の海外留学・研修、留学生の受入れ、教職員の海外派遣、外国人研究者の受入れ等の国際交流事業を推進している。

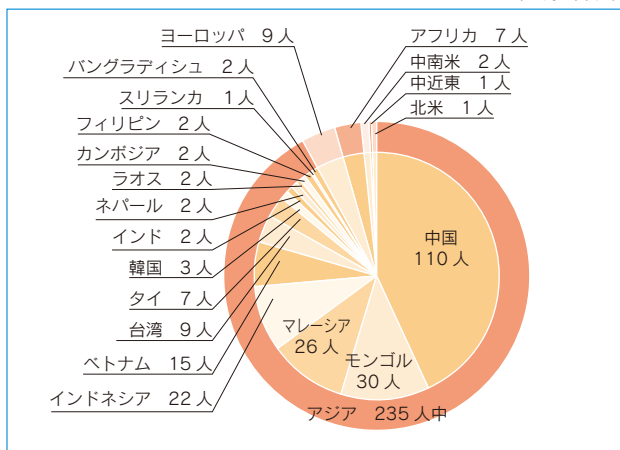
●大学間・学部間協定

2020年4月1日現在



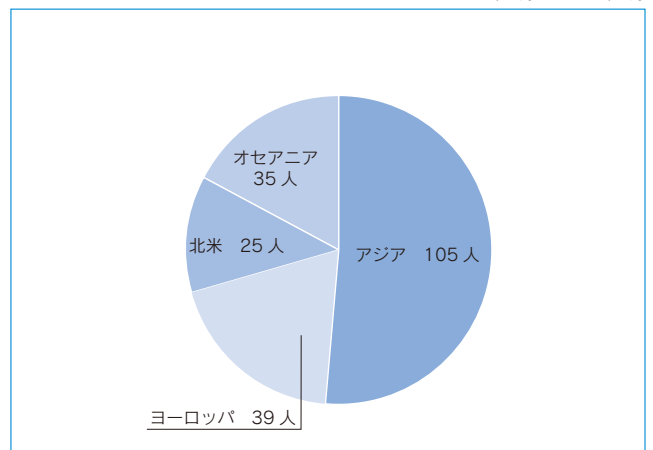
●地域別外国人留学生数

2020年4月1日現在



●地域別海外への学生派遣人数

2019年4月～2020年3月



群馬大学サマープログラム
日本文化体験



学生海外派遣春
ウーロンゴン英語研修



地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム
保健学研究科 嶋田淳子教授(エルサルバドル)

地域・社会との連携

教育や研究とともに社会貢献活動、特に地域貢献活動に力を入れています。コミュニティーの一員として、地域と共に歩む大学を目指して、各種公開講座や“群馬ちびっこ大学”などのイベント、また各教員や学部が実施するシンポジウムなどを通じて、県民の皆様、小中高生や大学生、教員、教育委員会や市町村などの自治体の皆様などを対象に、幅広い地域貢献活動を展開しています。これにより地域の皆様のニーズに応じて、本学の教育・研究活動の成果を社会に還元し、地域を発展させるため努力しています。

●公開講座・開放講座

本学がもつ教育・研究の成果を知識と技として広く社会に開放し、地域社会における教育文化の向上に資することを目的に、1988年度から実施しています。また、2004年度に国立大学が法人化されてからも、引き続き実施しています。本年度も共同教育学部、社会情報学部、医学部及び理工学部の教員等が講師となり、多くの講座を開講しています。



2019年度公開講座Aコース
『社会起業家特論』



2019年度開放講座Aコース
『国際協力、はじめての一步!』



2019年度開放講座Bコース
『からだであそぼう!!からだであうたおう!!
みんなでまなぼう!!』

●子ども体験教室「群馬ちびっこ大学」

※2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため「群馬ちびっこ大学」は開催いたしません。

専門的な学問をわかりやすく、とりわけ小学生にも理解できるように、また興味がわくように行っているのが「群馬ちびっこ大学」です。子どもたちは、実体験を通じた学習機会が少なくなってきました。そこで体験的な学習を通じて、五感で学問の面白さ、奥深さを実感することで、将来の日本や世界を担う人材の若い芽を育むことを目的として実施しています。



入場



体感!量子ビームワンダーランド



プチ看護師になってみよう♥



きぎにおいでよ!おはなしを!!



車いすに乗ってみよう!



卒業証書

資料編

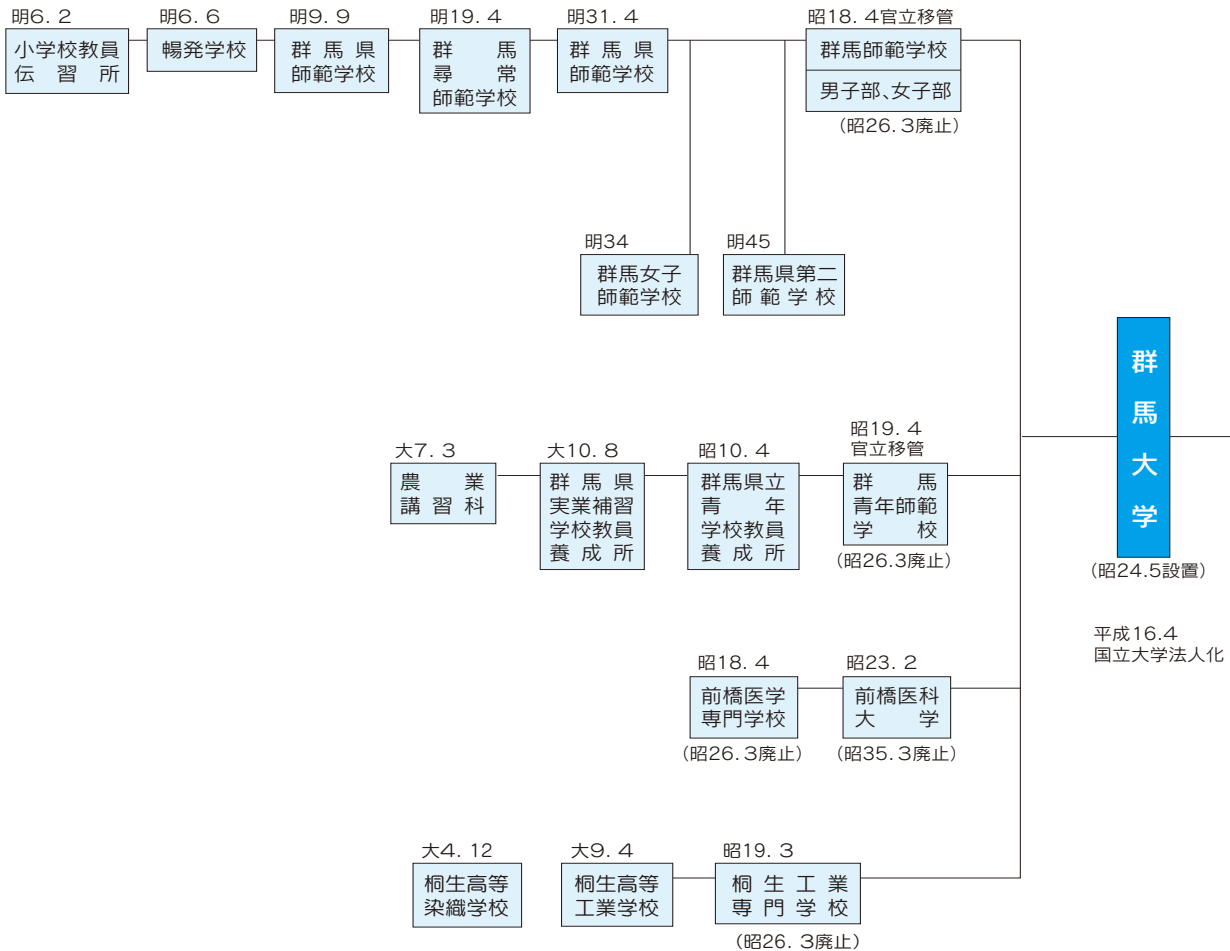
Contents

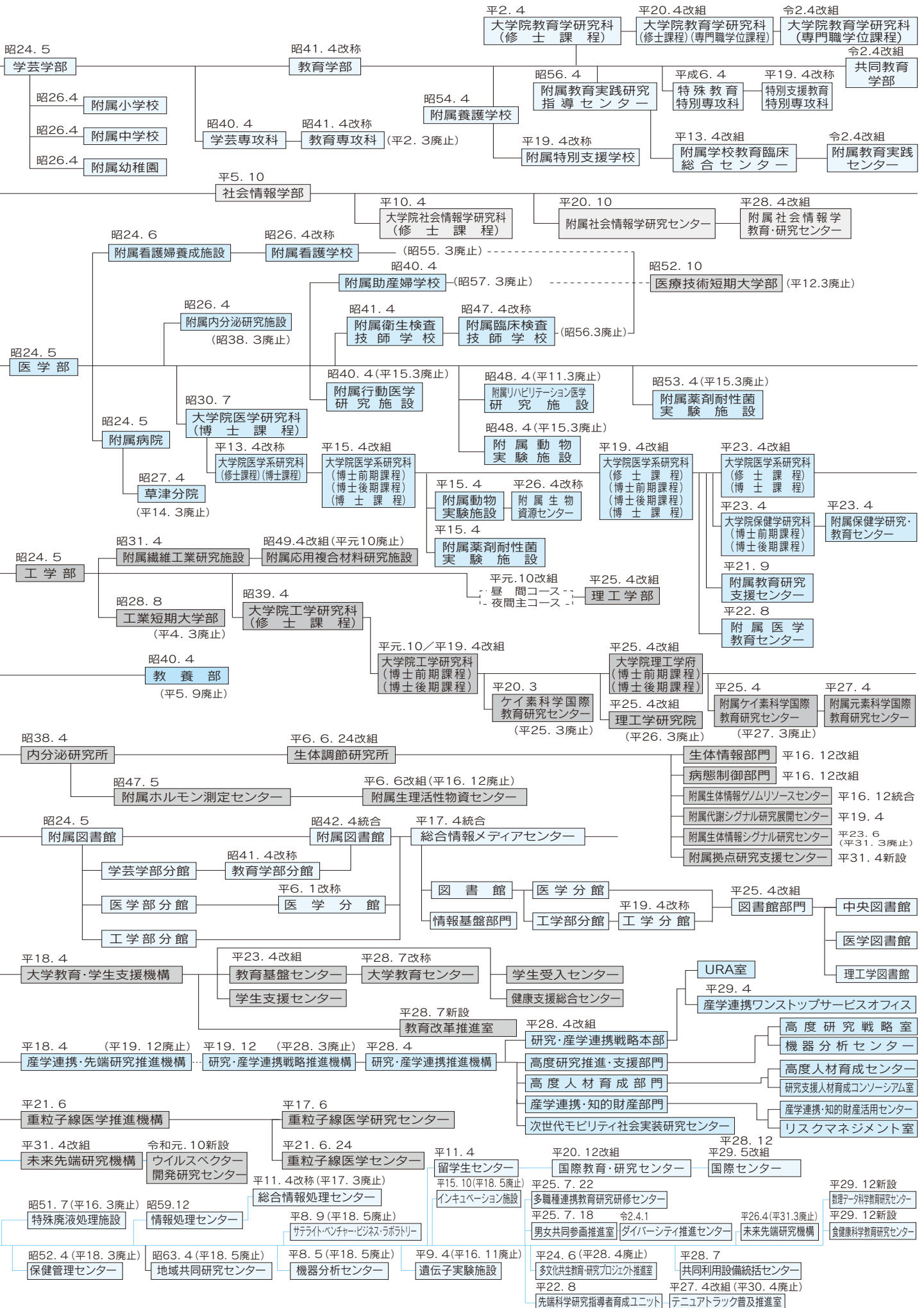
資料編

歴代学長、沿革	24-25
管理運営組織、事務組織	26
教育・研究組織	27
役員及び主な役職者等	28-29
学生の数	30-31
入学志願状況等、学部入学者の出身地区別内訳	32
卒業・修了者数・学位授与者数	33
卒業後の状況	34
国際交流	35-37
附属施設	38
主な教育研究補助金採択状況	39
地域貢献事業一覧、公開講座、開放講座	40
収入・支出予算額、研究費等受入状況	41
土地・建物面積、学部等所在地分布図	42
学部等所在地	43
建物配置図（荒牧地区、昭和地区）	44
建物配置図（桐生地区、太田地区）	45
交通アクセス（荒牧、昭和、若宮、上沖地区）	46
交通アクセス（桐生、太田地区）	47
学生歌、大学徽章・ロゴマーク	48
認証評価認定マーク	49

代数	氏名	在任期間
初代	西成甫	昭和24. 5.31 ~ 昭和36. 6.20
(事務取扱)	相葉伸	// 36. 6.21 ~ // 36. 7.13
第2代	長谷川秀治	// 36. 7.14 ~ // 42. 7.13
(事務取扱)	柴田勝博	// 42. 7.14 ~ // 42. 8.31
第3代	秋月康夫	// 42. 9. 1 ~ // 46. 8.31
(事務取扱)	町田周郎	// 46. 9. 1 ~ // 46.12.15
第4代	石原恵三	// 46.12.16 ~ // 50.12.15
第5代	畑敏雄	// 50.12.16 ~ // 56.12.15
第6代	小野周	// 56.12.16 ~ // 60.12.15
第7代	前川正	// 60.12.16 ~ 平成 3.12.15
第8代	石川英一	平成 3.12.16 ~ // 9.12.15
第9代	赤岩英夫	// 9.12.16 ~ // 15.12.15
第10代	鈴木守	// 15.12.16 ~ // 16. 3.31
(国立大学法人 群馬大学長)	鈴木守	// 16. 4. 1 ~ // 21. 3.31
第11代	高田邦昭	// 21. 4. 1 ~ // 27. 3.31
第12代	平塚浩士	// 27. 4. 1 ~ 現在

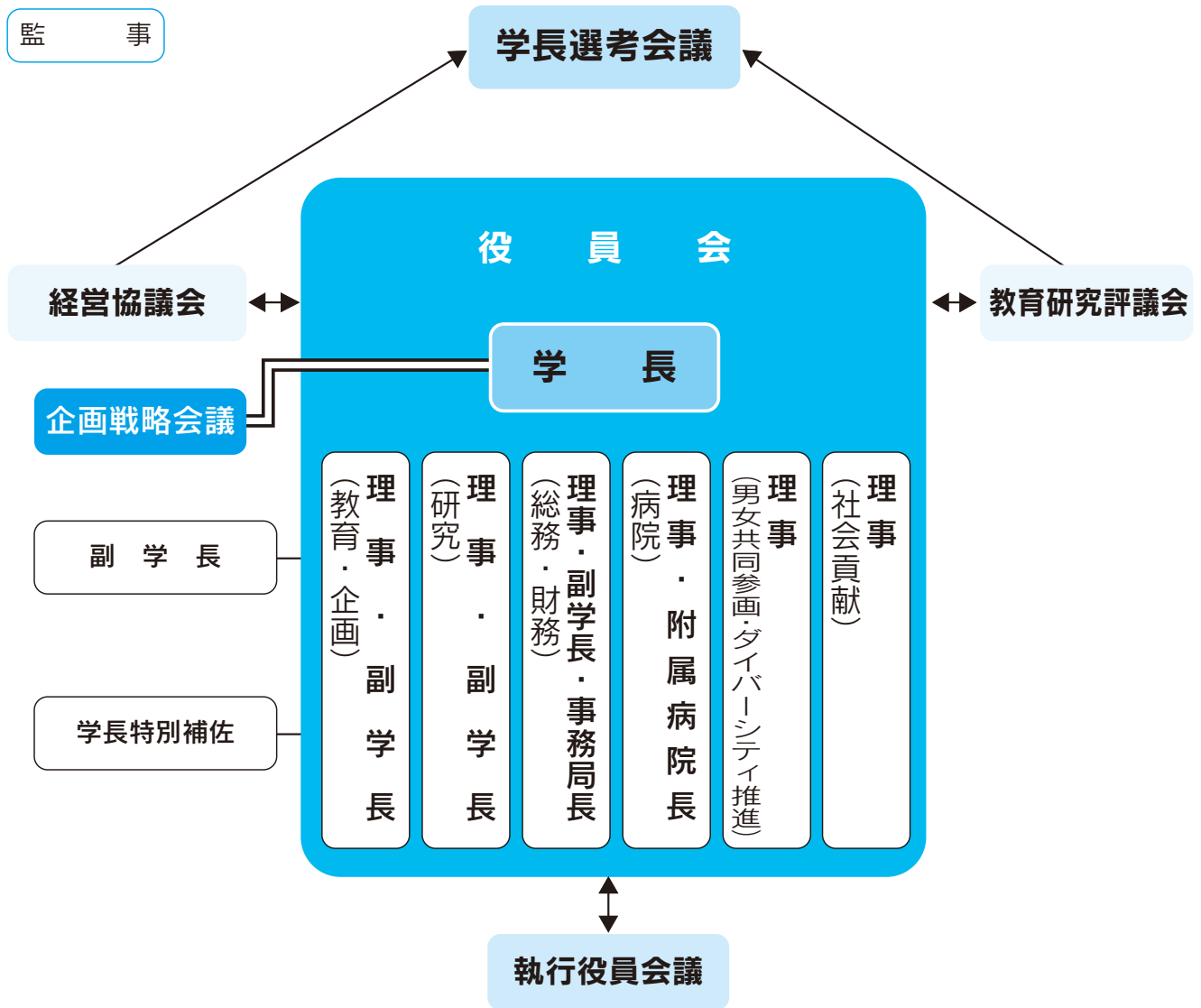
沿革





資料編

管理運営組織



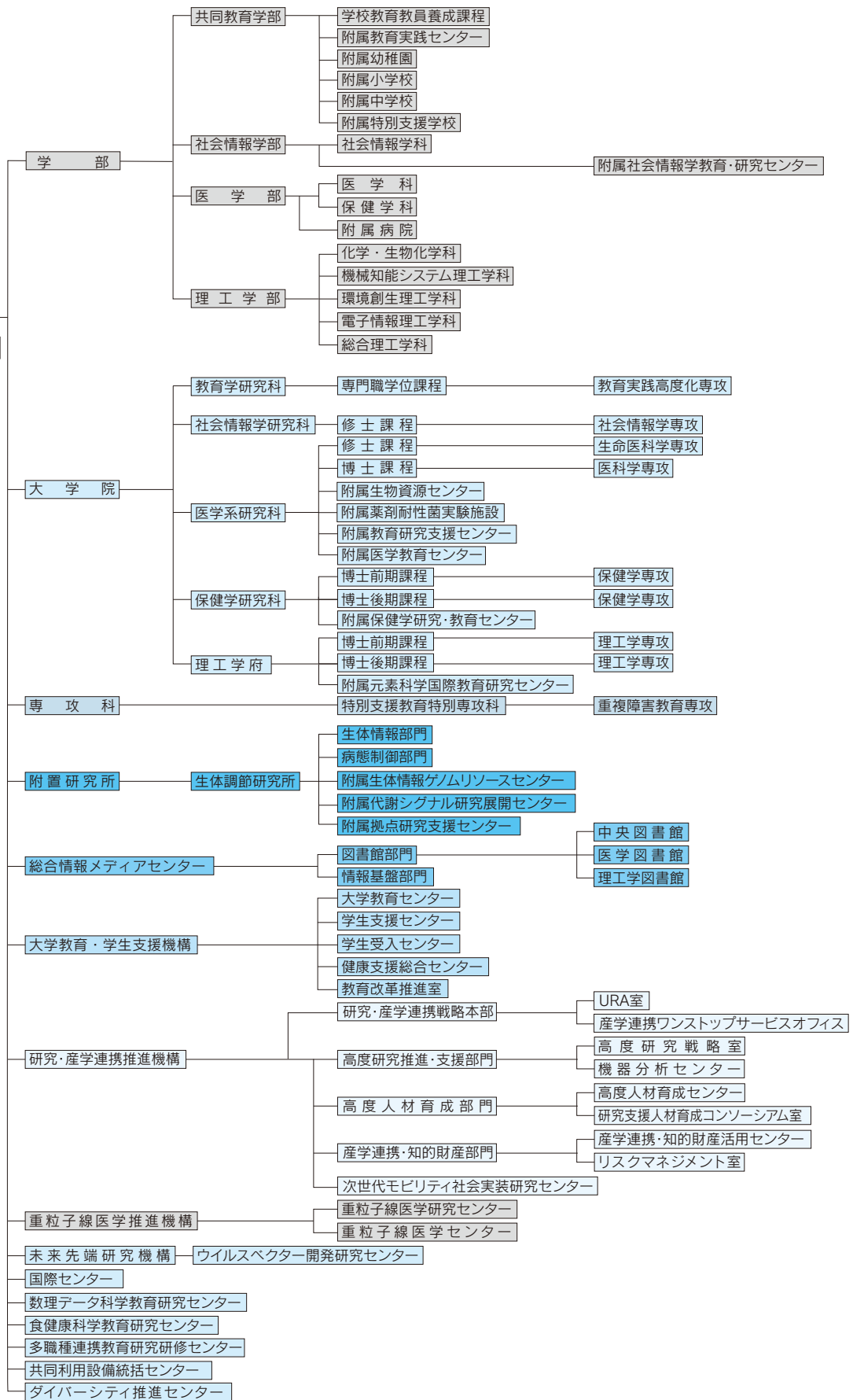
事務組織

事務局							共同教育学部				昭和地区事務部				理工学部・事務部											
総務部	財務部	学務部	研究推進部	施設運営部	国際	監査室	事務部	附属幼稚園事務室	附属小学校事務室	附属中学校事務室	附属特別支援学校事務室	社会情報学部・事務部	総務課	学務課	経営企画課	管理運営課	医療安全推進室	理工学部・事務部								
総務課	人事課	企画評価課	財務課	経理課	教務課	学生支援課	学生受入課	研究推進課	産学連携推進課	総合情報メディアセンター課	施設企画課	施設整備課	国際課	法務・コンプライアンス室	事務部	附属幼稚園事務室	附属小学校事務室	附属中学校事務室	附属特別支援学校事務室	社会情報学部・事務部	総務課	学務課	経営企画課	管理運営課	医療安全推進室	理工学部・事務部

群馬大学

学術研究院

(平成26.4)
教員組織の一元化



役員・執行役員・副学長・学長特別補佐・特別教授・顧問

役員		
学長	平塚浩士	
理事(教育・企画担当)	峯岸敬	
理事(研究担当)	窪田健二	
理事(総務・財務担当)・事務局長	児島昌樹	
理事(病院担当)・附属病院長	田村遵一	
理事(学長特命担当(男女共同参画・ダイバーシティ推進)・非常勤)	本多悦子	
理事(学長特命担当(社会貢献)・非常勤)	福水健文	
監事	岡野弘文	
監事(非常勤)	森田均	

副学長		
理事(教育・企画担当)	峯岸敬	
理事(研究担当)	窪田健二	
理事(総務・財務担当)・事務局長	児島昌樹	
大学将来構想(中長期戦略)	花屋実	
ダイバーシティ推進センター長	工藤貴子	
国際センター長	末松美知子	
データサイエンス	林邦彦	

執行役員		
学長	平塚浩士	
理事(教育・企画担当)	峯岸敬	
理事(研究担当)	窪田健二	
理事(総務・財務担当)・事務局長	児島昌樹	
理事(病院担当)	田村遵一	
理事(学長特命担当(男女共同参画・ダイバーシティ推進)・非常勤)	本多悦子	
共同教育学部長	齋藤周	
社会情報学部長	高山利弘	
医学系研究科長	石崎泰樹	
保健学研究科長	横山知行	
理工学部長	関庸一	
生体調節研究所長	佐藤健	
総合情報メディアセンター長	田中麻里	

学長特別補佐		
病院改革担当	鈴木和浩	
数理データ科学教育研究センター長	浅尾高行	
食健康科学教育研究センター長	粕谷健一	
将来構想PT(理工学部)	石間経章	
企画戦略室経営戦略担当	園山正史	
高大接続システム改革室担当	板橋英之	
企画戦略室経営戦略担当	小湊慶彦	

特別教授(非常勤)		
	富山慶典	
	桑野博行	
	中野隆史	
	村上博和	
	篠塚和夫	
	蒲章則	
	白尾智明	
	渡邊秀臣	
	横尾英俊	

顧問(非常勤)		
元群馬大学長(第10代)	鈴木守	
前群馬大学長(第11代)	高田邦昭	
元学長選考会議議長	高橋康三	

学長選考会議・経営協議会・教育研究評議会

学長選考会議		
経営協議会	加藤則子	十文字学園女子大学教育人文学部教授
経営協議会	齋藤一雄	株式会社群馬銀行代表取締役会長
経営協議会	曾我孝之	前橋商工会議所会頭
経営協議会	中村秀一	一般社団法人医療介護福祉政策研究フォーラム理事長
評議員	石崎泰樹	医学系研究科長
評議員	関庸一	理工学部長
評議員	齋藤周	共同教育学部長
評議員	横山知行	保健学研究科長

※国立大学法人群馬大学学長選考会議規則第3条第3項に係る委員を除く。

経営協議会		
1. 議長	平塚浩士	学長
2. 学外委員	内山充	株式会社上毛新聞社代表取締役社長
	加藤則子	十文字学園女子大学教育人文学部教授
	齋藤一雄	株式会社群馬銀行代表取締役会長
	曾我孝之	前橋商工会議所会頭
	反町敦	前群馬県副知事
	登坂正一	太陽誘電株式会社代表取締役社長
	中村秀一	一般社団法人医療介護福祉政策研究フォーラム理事長
3. 学内委員	峯岸敬	理事(教育・企画担当)
	窪田健二	理事(研究担当)
	児島昌樹	理事(総務・財務担当)・事務局長
	田村遵一	理事(病院担当)・附属病院長
	本多悦子	理事(学長特命担当(男女共同参画・ダイバーシティ推進)・非常勤)

教育研究評議会		
1. 議長	平塚浩士	学長
2. 評議員	峯岸敬	理事(教育・企画担当)
	窪田健二	理事(研究担当)
	児島昌樹	理事(総務・財務担当)・事務局長
	田村遵一	理事(病院担当)・附属病院長
	本多悦子	理事(学長特命担当(男女共同参画・ダイバーシティ推進)・非常勤)
	花屋実	副学長(大学将来構想(中長期戦略))
	齋藤周	共同教育学部長
	高山利弘	社会情報学部長
	石崎泰樹	医学系研究科長
	横山知行	保健学研究科長
	関庸一	理工学部長
	佐藤健	生体調節研究所長
	田中麻里	総合情報メディアセンター長
	西園大実	共同教育学部教授
	柿本敏克	社会情報学部教授
	小山徹也	医学系研究科教授
	輿石一郎	保健学研究科教授
	石間経章	理工学教授
	藤谷与士夫	生体調節研究所教授

学部長等

2020年4月1日現在

共同教育学部		
学部長	齋藤 周	藤塚 秀司
事務長	飯島 彰	置英 彰
附属教育実践センター長	日永 由徳	吉田 秀文
附属幼稚園長	永吉 由徳	田原 景子
附属小学校長	吉田 秀文	上原 景子
附属中学校長	上原 景子	藤森 健太郎
附属特別支援学校長	藤森 健太郎	
社会情報学部		
学部長	高山 利弘	田中正 実
事務長	田中正 実	
医学部		
学部長	石崎 泰樹	
大学院医学系研究科		
研究科長	石崎 泰樹	
附属生物資源センター長	柳川 右千夫	
附属薬剤耐性菌実験施設長	富田 治芳	
大学院保健学研究科		
研究科長	横山 知行	
医学部附属病院		
病院長	田村 遵一	
理工学部		
学部長	関 庸一	
事務長	町田 敦志	
大学院理工学府		
学府長	関 庸一	
生体調節研究所		
所長	佐藤 健和	平井 宏弘
附属生体情報ゲノムリソースセンター長	平井 宏弘	北村 忠弘
附属代謝シグナル研究展開センター長	北村 忠弘	佐藤 健和
附属拠点研究支援センター長	佐藤 健和	
総合情報メディアセンター		
センター長(図書館長)	田中 麻里	
大学教育・学生支援機構		
機構長	峯岸 敬	渡辺 秀司
副機構長	峯岸 敬	峯岸 敬
大学教育センター長	峯岸 敬	峯岸 敬
学生支援センター長	峯岸 敬	峯岸 敬
学生受入センター長	峯岸 敬	峯岸 敬
健康支援総合センター長	田村 遵一	峯岸 敬
教育改革推進室長	峯岸 敬	
研究・産学連携推進機構		
機構長	窪田 健二	板橋 英之
副機構長	板橋 英之	小若 彦
産学連携ワンストップサービスオフィス室長	板橋 英之	松本 馨
高度研究推進・支援部門長	小若 彦	花泉 修
機器分析センター長	若松 馨	本島 邦行
高度人材育成部門長	花泉 修	伊藤 正実
高度人材育成センター長	本島 邦行	石間 経章
研究支援人材育成コンソーシアム室長	伊藤 正実	
産学連携・知的財産部門長	石間 経章	

産学連携・知的財産活用センター長	佐藤 和浩	藤村 淑子
リスクマネジメント室長	西太 田直	
次世代モビリティ社会実装研究センター長		
重粒子線医学推進機構		
機構長	窪田 健二	
重粒子線医学研究センター長	大野 達也	
重粒子線医学センター長	田村 遵一	
未来先端研究機構		
機構長	窪田 健二	
国際センター		
センター長	末松 美知子	
数理データ科学教育研究センター		
センター長	浅尾 高行	
食健康科学教育研究センター		
センター長	粕谷 健一	
ダイバーシティ推進センター		
センター長	工藤 貴子	
監査室 法務・コンプライアンス室		
監査室長	青木 あずさ	
法務・コンプライアンス室長	青木 あずさ	
事務局		
事務局長・副学長	児島 昌樹	大川 鉄也
総務部長	尾野 浩康	加藤 真一
総務課長	加藤 真一	坂本 秀武
人事労務課長	企画評価課長(兼任)	山路 尚博
財務部長	山吉 小大	井林 厚雄
財務課長	小大 川村	川村 順一
経理課長	大田 村崎	英俊 彦
学務部長	中野 俊彦	佐々木 樹一
教務課長	中野 俊彦	佐々木 樹一
学生支援課長	佐々木 樹一	佐々木 樹一
学生受入課長	佐々木 樹一	佐々木 樹一
研究推進部長	佐々木 樹一	佐々木 樹一
研究推進課長	佐々木 樹一	佐々木 樹一
産学連携推進課長	佐々木 樹一	佐々木 樹一
総合情報メディアセンター課長	佐々木 樹一	佐々木 樹一
施設運営部長	相澤 田智	田智 弘智
施設企画課長	相澤 田智	田智 弘智
施設整備課長	相澤 田智	田智 弘智
国際課長	七秋 保和	
調査役	七秋 保和	
昭和地区事務部		
事務部長	安部 則行	高橋 明雄
事務部次長	高橋 明雄	渡辺 英雄
総務課長	渡辺 英雄	笠井 好之
学務課長	笠井 好之	佐佐木 修二
経営企画課長	佐佐木 修二	佐藤 彦生
管理運営課長	佐藤 彦生	加藤 幸泰
医事課長	加藤 幸泰	
医療安全推進室長	小林 泰治	

職員の数

2020年4月1日現在(人)

区分	役員		教授		准教授		講師		助教		助手		教諭		看護教諭	事務等技術職員		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		男	女		
共同教育学部			29	7	24	15	5			3			52	31	4	9	10	189	
大学院教育学研究科			7		2	1												10	
社会情報学部			10	2	13				1		1						4	3	34
医学部																	6	8	14
大学院医学系研究科			38		28	3	18	3	39	16						1	1	147	
大学院保健学研究科			16	12	9	5	2	6	6	19								75	
医学部附属病院			1		11		30	4	104	39						222	828	1,239	
理工学部																35	23	58	
大学院理工学府			68	2	67	3	1		36	7	1					1		186	
生体調節研究所			8		5	1	2		11	4						3	1	35	
総合情報メディアセンター			1		1											4		6	
大学教育・学生支援機構			2	2	6			3									1	14	
研究・産学連携推進機構			1		2		1		1							1		6	
重粒子線医学推進機構			1		1		1		10	2								15	
未来先端研究機構			1		2			1	2	1								7	
国際センター			1		1			4										6	
数理データ科学教育研究センター			2		3	1		1										7	
食健康科学教育研究センター			1					2										3	
ダイバーシティ推進センター								1										1	
事務局等	6															110	49	165	
昭和地区事務部																78	89	167	
総計	6		187	25	175	29	60	24	211	91	2	52	31	4	474	1,013		2,384	

学部

2020年4月1日現在 (人)

学部	学科等	入学定員	収容定員	現 員																				
				1年次			2年次			3年次			4年次			5年次			6年次			計		
				男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
共同教育学部	学校教育教員養成課程	190	190	98	105	203																98	105	203
教育学部	学校教育教員養成課程						106	124	230	110	127	237	106	139	245							322	390	712
社会情報学部	社会情報学科	100 (20)	440	45	57	102	46	55	101	51	76	127	70	69	139							212	257	469
	情報行動学科												3	3							3	3		
	情報社会科学												1	1							1	1		
	計	100 (20)	440	45	57	102	46	55	101	51	76	127	74	69	143							216	257	473
医学部	医学科	108 [15]	723	81	33	114	94	41	135	93	43	136	84	53	137	77	32	109	93	43	136	522	245	767
	保健学科	160 (10)	660	33	136	169	26	136	162	33	125	158	32	132	164							124	529	653
	計	268 [15] (10)	1,383	114	169	283	120	177	297	126	168	294	116	185	301	77	32	109	93	43	136	646	774	1,420
理工学部	化学・生物化学	165	645	97	83	180	108	70	178	85	82	167	83	88	171							373	323	696
	機械知能システム理工学科	110	440	107	8	115	110	15	125	114	11	125	126	7	133							457	41	498
	環境創生理工学科	95	365	74	22	96	77	21	98	75	18	93	69	21	90							295	82	377
	電子情報理工学科	140	500	132	14	146	105	15	120	142	19	161	134	17	151							513	65	578
	総合理工学科*	30	120	26	5	31	24	5	29	29	6	35	19	9	28							98	25	123
工学部	昼間コース	応用化学・生物化学																						0
		機械システム理工学科											1	1							1		1	
		生産システム理工学科																						0
		環境プロセス理工学科																						0
		社会環境デザイン理工学科																						0
		電気電子工学科																						0
		情報工学科																						0
	夜間主コース	生産システム理工学科											1	1							1	0	1	
	計	540 (30)	2,070 [60]	436	132	568	424	126	550	445	136	581	433	142	575							1,738	536	2,274
合 計		1,098 [15] (60)	4,083 [60]	693	463	1,156	696	482	1,178	732	507	1,239	729	535	1,264	77	32	109	93	43	136	3,020	2,062	5,082

【 】内の数字は2年次編入学定員を表し、外数である。()内の数字は3年次編入学定員を表し、外数である。理工学部の編入学定員は学科共通。

[]内の数字は理工学部学科共通収容定員を表し、外数である。

*夜間主コース (フレックス制)

大学院

2020年4月1日現在 (人)

研究科等	専攻	入学定員	収容定員	現 員																			
				1年次			2年次			3年次			4年次			5年次			計				
				男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計		
教育学研究科	修士課程	障害児教育専攻					2	1	3									2	1	3			
		教科教育実践専攻					14	7	21									14	7	21			
		小 計					0	0	0	16	8	24						16	8	24			
	専門職学位課程	教育実践高度化専攻	20	20	10	10	20											10	10	20			
		教職リーダー専攻						7	5	12								7	5	12			
			20	20	10	10	20	7	5	12								17	15	32			
	計	20	20	10	10	20	23	13	36								33	23	56				
社会情報学研究科	社会情報学専攻	14	28	1	5	6	4	4	8								5	9	14				
医学系研究科	修士課程	生命医科学専攻	15	30	4	1	5	4	4	8							8	5	13				
	博士課程	医科学専攻	57	228	27	17	44	35	17	52	48	15	63	60	33	93		170	82	252			
	計	72	258	31	18	49	39	21	60	48	15	63	60	33	93		178	87	265				
保健学研究科	博士前期課程	保健学専攻	50	100	16	23	39	28	22	50							44	45	89				
	博士後期課程	保健学専攻	10	30							7	2	9	7	5	12	11	17	28	25	24	49	
	計	60	130	16	23	39	28	22	50	7	2	9	7	5	12	11	17	28	69	69	138		
理工学府	博士前期課程	物質・生命理工学教育プログラム	300	600	63	38	101	67	31	98							130	69	199				
		知能機械創製理工学教育プログラム			94	5	99	86	1	87						180	6	186					
		環境創理工学教育プログラム			45	11	56	44	7	51						89	18	107					
		電子情報・数理教育プログラム			84	7	91	84	6	90						168	13	181					
		計			300	600	286	61	347	281	45	326							567	106	673		
	博士後期課程	物質・生命理工学領域	39	117							4	2	6	2	1	3	7	6	13	13	9	22	
		知能機械創製理工学領域										12	0	12	7	1	8	15	1	16	34	2	36
		環境創理工学領域										2	3	5	2	0	2	12	4	16	16	7	23
		電子情報・数理領域										5	2	7	4	1	5	5	2	7	14	5	19
		計			39	117							23	7	30	15	3	18	39	13	52	77	23
	計	339	717	286	61	347	281	45	326	23	7	30	15	3	18	39	13	52	644	129	773		
工学研究科	博士後期課程	工学専攻														1	1	1	0	1			
	計															1	1	1	0	1			
課程別内訳	修士課程及び博士前期課程	379	758	307	90	397	333	83	416								640	173	813				
	博士課程及び博士後期課程	106	375	27	17	44	35	17	52	78	24	102	82	41	123	51	30	81	273	129	402		
	専門職学位課程	20	20	10	10	20	7	5	12								17	15	32				
	合計	505	1,534	344	117	461	375	105	480	78	24	102	82	41	123	51	30	81	930	317	1,247		

専攻科

2020年4月1日現在 (人)

専攻科	専攻	入学定員	収容定員	現 員		
				男	女	計
特別支援教育特別専攻科	重複障害教育専攻	15	15	1	8	9

入学志願状況 (2020年度)

学 部	入学定員	入学志願者数				入学者数		
		男	女	計	倍率	男	女	計
共同教育学部	190	284 (3)	307 (3)	591 (6)	3.1	97	106	203
社会情報学部	100	319 (4)	231 (7)	550 (11)	5.5	45	57	102
医 学 部	268	318	571	889	3.3	111	163	274
理 工 学 部	540	986 (41) [1][1]	296 (5)	1,282 (46) [1][1]	2.3	420 (3) [1][1]	129	549 (3) [1][1]
計	1,098	1,907 (48) [1][1]	1,405 (15)	3,312 (63) [1][1]	3.0	673 (3) [1][1]	455	1,128 (3) [1][1]

注：() 内の数字は私費外国人留学生入試を表し、外数である。
 [] 内の数字はマレーシア政府派遣留学生を表し、外数である。
 【 】内の数字は国費外国人留学生を表し、外数である。

2年次編入学 (2020年度)

学 部 等	入学定員	入学志願者数				入学者数		
		男	女	計	倍率	男	女	計
医学部医学科	15	179	139	318	21.2	8	7	15

3年次編入学 (2020年度)

学 部 等	入学定員	入学志願者数				入学者数		
		男	女	計	倍率	男	女	計
社会情報学部	20	42	31	73	3.7	10	17	27
医学部保健学科	10	4	-	4	0.4	-	-	-
理 工 学 部	30	78	12	90	3.0	28 (3)	4	32 (3)
計	60	124	43	167	2.8	38 (3)	21	59 (3)

注：() 内の数字は理工学部・ハノイ工科大学ツイニング・プログラム入学者を表し、外数である。

学部入学者の出身地区別内訳

北海道 7	関東 903	中部 124	近畿 8	四国 4	九州 14
東北 43	茨城県 39	新潟県 19	三重県 4	徳島県 2	福岡県 2
青森県 4	栃木県 96	富山県 13	滋賀県 -	香川県 1	佐賀県 -
岩手県 9	群馬県 506	石川県 7	京都府 -	愛媛県 1	長崎県 3
宮城県 7	埼玉県 149	福井県 5	大阪府 1	高知県 -	熊本県 3
秋田県 7	千葉県 31	山梨県 2	兵庫県 2		大分県 1
山形県 5	東京都 58	長野県 31	奈良県 1	中国 14	宮崎県 3
福島県 11	神奈川県 24	岐阜県 5	和歌山県 -	鳥取県 1	鹿児島県 2
		静岡県 32		島根県 3	沖縄 3
		愛知県 10		岡山県 8	その他 6
				広島県 1	
				山口県 1	

2019年度卒業・修了者数

学 部	区 分	学 部	大 学 院									専攻科	合 計
			修士課程			博士課程			専門職学位課程				
			男	女	小計	男	女	小計	男	女	小計		
教育学部		226	14	11	25				7	8	15	14	280
社会情報学部		119	4	4	8								127
医学部		281	31	28	59	38	24	62					402
	(医学)	118	4	4	8	34	17	51					
	(保健)	163	27	24	51	4	7	11					
理工学部		557	257	52	309	9	7	16					882
工学部		1				1	0	1					2
計		1,184	306	95	401	48	31	79	7	8	15	14	1,693

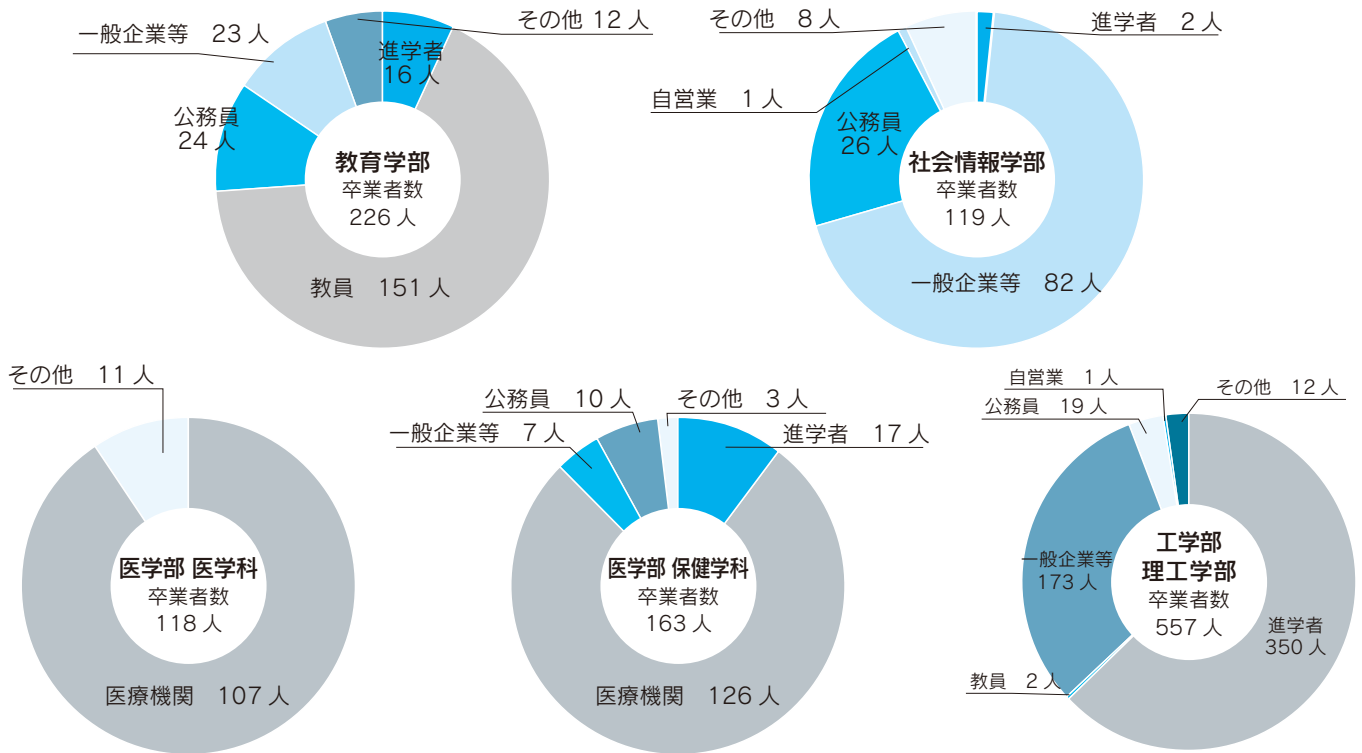
卒業・修了者数 (累計)

学 部	区 分	学 部	大学院			専攻科	臨時教員 養成課程	2年課程	合 計
			修士課程	博士課程	専門職 学位課程				
教育学部		17,537	1,041		171	433	235	1,419	20,836
社会情報学部		2,720	258						2,978
医学部		9,307	1,011	1,945					12,263
	(医学)	5,866	129	1,806					
	(保健)	3,441	882	139					
理工学部		2,157	1,870	57					4,084
工学部		27,179	7,367	516		47			35,109
計		58,900	11,547	2,518	171	480	235	1,419	75,270
医療技術短期大学部		2,647				340			2,987
工業短期大学部		4,886							4,886

学位授与者数 (累計)

種 類	計
博士 (医学)	3,216
課程修了	1,806
論文提出	1,410
博士 (保健学)	151
課程修了	139
論文提出	12
博士 (理工学)	75
課程修了	57
論文提出	18
博士 (工学)	643
課程修了	516
論文提出	127
修士 (教育学)	1,041
修士 (社会情報学)	258
修士 (生命医科学)	129
修士 (保健学)	882
修士 (理工学)	1,870
修士 (工学)	7,367
教職修士 (専門職)	171

学部卒業者の進路状況 (2019年度 ※9月卒業者を含む)



大学院修了者の進路状況 (2019年度 ※年度内修了者を含む)

研究科	区分	修了者数	進学者数	就 職 者 数							その他
				教 員	医療機関	一般企業等	公務員	自営業	その他法人等	計	
教育学研究科	修士課程	40	2	30		2	2	1		35	3
	専門職学位課程										
社会情報学研究科	社会情報学専攻	8				6				6	2
医学系研究科	修士課程	8	1			2				2	5
	生命医科学専攻										
保健学研究科	博士前期課程	51	3	4	35	2	1		6	48	3
	医科学専攻										
工学部	博士前期課程	309	11			294	1			295	3
	博士後期課程										
工学研究科	博士前期課程	16		1		11				12	4
	博士後期課程										
工学研究科	博士後期課程	1				1				1	
計		495	17	41	63	333	6	1	9	453	25

専攻科修了者の進路状況 (2019年度)

専攻科	区分	修了者数	進学者数	就 職 者 数							その他
				教 員	医療機関	一般企業等	公務員	自営業	その他法人等	計	
特別支援教育特別専攻科		14	1	12		1				13	

〔国費〕… 文部科学省国費外国人留学生

〔私費〕… 私費外国人留学生

※外国政府（マレーシア政府派遣など）の奨学金を受給する者及びJASSOの留学生対象奨学金、民間の奨学金を受給する者を含む。

国・地域別外国人留学生

2020年4月1日現在（人）

地域・国名	学部学生		大学院学生				研究生				特別聴講学生				特別研究学生		計			合計	
	国費	私費	修士課程	博士課程	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	合計		
アジア (14か国) (1地域)	中国	1	16		38	4	27		12					7			5		5	105	110
	マレーシア	1	24					1											2	24	26
	モンゴル		3		3	2	16									6			2	28	30
	インドネシア	3	1	1	1	3	7	1					2	3					10	12	22
	ベトナム		6		4	3	2												3	12	15
	台湾				1		1							6				1		9	9
	タイ					1	6												1	6	7
	韓国		2		1															3	3
	インド						2													2	2
	ネパール					1	1												1	1	2
	ラオス	1					1												1	1	2
	カンボジア				2															2	2
	フィリピン	1				1													2		2
	バングラディシュ						1		1											2	2
スリランカ				1															1	1	
小計	7	52	1	51	15	64	2	13	-	-	2	16	-	6	-	6	-	27	208	235	
中近東 (1か国)	シリア					1													1	-	1
	小計	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
アフリカ (5か国)	エジプト		1	1															1	1	2
	コートジボアール				1														1	2	2
	ナイジェリア					1													1	-	1
	ケニア							1											1	-	1
	ジンバブエ							1											1	-	1
	小計	-	1	1	1	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	4	3
北米 (1か国)	アメリカ合衆国												1						-	1	1
	小計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	1
中南米 (2か国)	エルサルバドル					1													1	1	1
	チリ							1											1	-	1
小計	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	2	
ヨーロッパ (4か国)	アゼルバイジャン				1								1	3					1	4	5
	フランス																2		-	2	2
	ポーランド												1						1	-	1
	ハンガリー												1						1	-	1
小計	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	3	3	-	-	-	-	2	3	6	
合計 (27か国1地域)	7	53	2	53	17	65	5	13	-	-	5	20	-	6	-	9	-	36	219	255	
学部合計	60		大学院合計				137				研究生合計				18		交換留学生など合計		40		

学部・研究科等別外国人留学生

教育学（教育学部・共同教育学部）	1					4	1			2	12					6	14	20
社会情報学	3		8					6		3	6					3	23	26
医学	1	1	2		11	32		1								14	34	48
保健学				3		2						6				-	11	11
理工学	6	48		42	6	31	1	5			2				9	13	137	150
生体調節研究所																-	-	-

学生の海外派遣数

(2019年4月～2020年3月派遣)

地域	留学・派遣先 国名	教育学部	教育学 研究科	社会 情報学部	社会情報学 研究科	医学部 医学科	医学系 研究科	医学部 保健学科	保健学 研究科	理工学部	理工学術	特別支援教育 特別専攻科	合計
アジア (10か国1地域)	韓国	33						5				3	41
	ベトナム	3		2		4		2		7	2		20
	マレーシア									11			11
	インドネシア	4				4							8
	モンゴル							7	1				8
	シンガポール	2		1							1		4
	タイ										4		4
	中国									1	2		3
	ミャンマー	3											3
	台湾			2									2
インド										1		1	
オセアニア (2か国)	オーストラリア	6		5		3		3		17			34
	ニュージーランド										1		1
北米 (1か国)	アメリカ	5		5		1		5		9			25
	イギリス	1		6	1	1		1		14			24
ヨーロッパ (8か国)	ドイツ	1						1		2	2		6
	フランス									1	2		3
	スロベニア	1		1									2
	オランダ					1							1
	クロアチア										1		1
	ジョージア										1		1
	スイス									1			1
総計	59	-	22	1	14	-	24	1	64	16	3	204	

国際交流協定

国・地域	大学名	協定締結(更新)日	備考
アジア			
中華人民共和国	西安交通大学	(2001.12.4)	大学間協定
	廈門大学	(2014.9.1)	〃
	沈阳化工大学	(2011.1.14)	〃
	華北電力大学	(2015.8.12)	〃
	大連医科大学	(2006.7.12)	〃
	大連理工大学	(2007.1.30)	〃
	大連工業大学	(2007.9.26)	〃
	中国科学院過程工程研究所	(2019.2.27)	〃
	重慶交通大学	(2009.3.25)	〃
	海南大学	(2009.7.29)	〃
	南開大学生命科学学院	(2002.11.2)	学部間協定
	内蒙古大学生命科学学院	(2007.2.13)	〃
	合肥工業大学(計器科学及光電工学院)	(2008.2.23)	〃
	上海交通大学(機械工学部)	(2008.3.25)	〃
	上海理工大学光学・電子情報工程学院	(2008.7.28)	〃
	中国鉱業大学	(2009.1.23)	〃
	東北大学理学院	(2009.2.28)	〃
	西南交通大学機械工学部	(2009.7.1)	〃
	湖南科技大学	(2009.10.16)	〃
	河北工業大学材料学院	(2015.8.22)	〃
	揚州大学水力・エネルギー・動力工学院	(2017.5.15)	〃
	揚州大学情報工程学院	(2013.3.8)	〃
	廈門理工学院光電通信工程学院	(2013.7.22)	〃
	天津大学精密機器と光電子工学院	(2014.11.7)	〃
	湖南大学生物学部	(2016.1.6)	〃
	中日友好病院	(2016.1.21)	〃
	首都医科大学	(2016.4.19)	〃
	揚州大学機械工程学院	(2016.5.16)	〃
	江蘇科技大学	(2016.10.17)	〃
	中国科学院都市環境研究所	(2017.3.23)	〃
	復旦大学	(2017.4.10)	〃
	浙江工業大学	(2017.5.10)	〃
山東大学化学と化工学院	(2017.5.23)	〃	
北京協和医学院	(2018.12.30)	〃	
大韓民国	嶺南大学校	(2020.2.1)	大学間協定
	建国大学校	(2019.10.9)	〃
	韓国原子力医学院	(2020.4.20)	学部間協定
	ソウル大学校	(2008.10.27)	〃
	釜山大学校	(2016.6.22)	〃
	ソウル科学技術大学校産業大学院	(2015.5.1)	〃
	韓国先端ケイ素材料研究教育センター	(2009.2.3)	〃
	韓国科学技術院ナノサイエンス研究部門	(2009.2.5)	〃
	慶熙大学校	(2009.12.14)	〃
	延世大学校科学技術大学	(2012.5.2)	〃
	延世大学校工科大学	(2013.1.30)	〃
	忠南大学校	(2015.8.11)	〃
	仁濟大学校	(2019.3.28)	〃
	大邱大学	(2016.3.29)	〃
ソウル国立大学病院	(2018.7.2)	〃	
KAIST 情報技術統合研究所	(2018.12.13)	〃	
台湾	東海大学	(2020.2.12)	大学間協定
	国立台北教育大学	(2018.2.5)	〃
	国立虎尾科技大学	(2013.1.21)	〃
	義守大学医学部	(2014.5.27)	学部間協定
	国立勤益科技大学	(2015.4.30)	〃
	世新大学	(2015.12.28)	〃
	国立交通大学工学部	(2018.1.2)	〃
	国立中央大学工学部・理学部	(2018.1.8)	〃
フィリピン	フィリピン大学マニラ校	(2019.1.8)	大学間協定
モンゴル	モンゴル国立医学科学大学	(2016.4.3)	〃
インド	ヒンドスタン大学	(2018.6.5)	学部間協定
	チトカラ大学	(2018.6.6)	〃
マレーシア	マレーシア国立大学	(2015.3.9)	〃
	ペトロナス工科大学	(2013.7.30)	〃
	ババン大学	(2014.9.9)	〃
	マラ技術大学トレンガヌ校	(2015.6.5)	〃
	マレーシアマラッカ技術大学電子情報工学部	(2018.9.22)	〃
ベトナム	ハノイ工科大学(機械工学部)	(2008.1.23)	学部間協定
	ベトナム原子力研究所ハノイ照射センター	(2013.2.23)	〃
	ハノイ教育大学	(2017.2.8)	〃
	FPT大学	(2019.8.1)	〃

国・地域	大学名	協定締結(更新)日	備考
インドネシア	バジャジャラン大学	(1996.9.20)	大学間協定
	インドネシア教育大学	(2018.4.18)	〃
	バンドン工科大学(数理・自然科学部)	(2010.10.11)	学部間協定
	ジャカルタ州立大学	(2016.7.13)	〃
	スマトラ工科大学	(2017.5.12)	〃
シンガポール	スリウィジャヤ大学	(2019.12.26)	〃
	南洋理工大學	(2015.3.20)	大学間協定
バングラデシュ	ダッカ大学	(2010.12.12)	〃
	ダッフォディル国際大学(理工学部)	(2017.2.8)	学部間協定
	ダッフォディル国際大学(科学情報技術学部)	(2017.2.8)	〃
タイ	チェンマイ大学	(2017.10.30)	大学間協定
	泰日工業大学	(2017.11.30)	〃
	モンクット王ラカバン工科大学	(2008.12.12)	学部間協定
	ラジャマンガラ工科大学(産業工学部)	(2017.5.12)	〃
	マヒドン大学理学部	(2017.1.24)	〃
	ナコンパトムラチャット大学理工学部	(2012.2.2)	〃
	チュラロンコン大学工学部	(2012.12.4)	〃
	モンクット王トンブリ工科大学	(2015.5.14)	〃
	ランシット大学	(2018.12.6)	〃
	ラジャマンガラ工科大学(工学部)	(2017.5.12)	〃
	ラジャマンガラ工科大学(天然資源学部)	(2017.5.12)	〃
ラジャマンガラ工科大学(農工学部)	(2017.5.12)	〃	
ラジャマンガラ工科大学(理文学部)	(2017.5.12)	〃	
ヨーロッパ			
ハンガリー	カーロリ・ゲーシュパール・カルビン派大学	(2010.3.17)	学部間協定
スロベニア	リュブリャナ大学	(2008.9.19)	大学間協定
ドイツ	ドイツ重イオン研究所ヘルムホルツセンター	(2020.3.27)	学部間協定
	ハイデルベルグ大学ハイデルベルグ粒子線治療センター	(2018.7.26)	〃
フランス	地中海大学(マルセイユ大学Ⅱ)	(2005.7.25)	大学間協定
	モンペリエ国立高等化学大学院	(2017.1.20)	学部間協定
	高等科学技術学院(IPSA)	(2016.4.20)	〃
	ESIEEパリ	(2017.4.12)	〃
	モンペリエ大学/フランス国立保健医学研究機構/モンペリエがん研究センター/モンペリエがん研究所	(2017.4.10)	〃
イタリア	フィレンツェ大学	(2003.4.16)	大学間協定
アゼルバイジャン	バクー国立大学	(2019.10.30)	〃
ポーランド	ヤギェウォ大学	(2012.3.29)	学部間協定
スウェーデン	ボロース大学(工学部)	(2016.8.15)	〃
	カロリンスカ研究所	(2015.11.11)	〃
チェコ	オストラバ工科大学	(2015.10.29)	大学間協定
スペイン	バレンシア工科大学	(2014.2.19)	学部間協定
オーストリア	ウィーン医科大学放射線治療教室	(2014.4.14)	〃
クロアチア	ザグレブ大学(人文社会学部)	(2014.7.3)	〃
ベルギー	リエージュ大学医学部並びにゲノプロテオミックス学際応用グループ	(2018.5.9)	〃
	リエージュ大学	(2015.8.14)	〃
リトアニア	ヴィータウタス・マグヌス大学	(2018.10.25)	大学間協定
	ヴィリニウス大学	(2019.4.3)	学部間協定
北米			
カナダ	ライオン大学	(2012.9.28)	学部間協定
アメリカ合衆国	ノースダコタ州立大学	(2010.5.27)	大学間協定
	サンディエゴ州立大学	(2016.8.22)	〃
	ニューヨーク州立大学ストーニーブルック校	(2014.8.29)	〃
	ワシントン大学(医学部)	(2002.4.2)	学部間協定
	マサチューセッツ総合病院 Francis H. Burr 陽子線治療センター/放射線腫瘍学科	(2018.6.28)	〃
	d/b/a メイヨクリニク メイヨクリニクロチェスター放射線腫瘍学科	(2008.10.23)	〃
	ピュージェット・サウンド大学大学院	(2017.10.17)	〃
	ミズーリ州立大学	(2020.2.18)	〃
	モアヘッド州立大学	(2015.12.16)	〃
	フォートリス大学	(2018.4.26)	〃
	アダムス州立大学	(2019.2.18)	〃
オハイオ州立大学 James 包括がんセンター/放射線腫瘍学科	(2018.8.30)	〃	
中南米			
ニカラグア	ニカラグア国立自治大学マナグア校	(2017.1.13)	大学間協定
コロンビア	サバナ大学	(2007.6.25)	学部間協定
オセアニア			
オーストラリア	ウーロンゴン大学	(2014.7.15)	大学間協定
ニュージーランド	オタゴ大学	(2017.11.10)	学部間協定

共同教育学部附属学校園

2020年4月1日現在

区 分		総定員	現 員						計	
			1年生/ 3歳児	2年生/ 4歳児	3年生/ 5歳児	4年生	5年生	6年生		
共同教育 学部	附属幼稚園	140	28	50	55	/	/	/	133	
	附属小学校	630	102	101	97	102	97	100	599	
	附属中学校	420	136	135	136	/	/	/	407	
	附属特別 支援学校	小学部	18	3	3	3	3	3	3	18
		中学部	18	6	6	6	/	/	/	18
		高等部	24	4	6	6	/	/	/	16
計		1,250	279	301	303	105	100	103	1,191	

医学部附属病院診療科及び患者数

診 療 科	区 分	2019年度患者数(人)	
		入院患者	外来患者
内 科 系	循環器内科、呼吸器・アレルギー内科、消化器・肝臓内科、 内分泌糖尿病内科、腎臓・リウマチ内科、血液内科、脳神経内科	53,704	124,748
外 科 系	循環器外科、呼吸器外科、消化管外科、乳腺・内分泌外科、肝胆膵外科、 泌尿器科、歯科口腔・顎顔面外科、形成外科	63,841	101,927
感覚器・運動機能系	整形外科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科	40,671	128,981
脳神経・精神・麻酔系	精神科神経科、麻酔科蘇生科、脳神経外科	25,206	25,511
小 児・ 女 性 系	小児科、小児外科、産科婦人科	23,454	38,989
放 射 線 系	放射線科、核医学科	7,793	34,241
計		214,669	454,397

※病床数：731床（2020年4月1日現在）
（診療科名は2019年度のもの）

事業名	名称	主たる担当部署等	採択年度	内容
科学技術人材育成の コンソーシアムの構 築事業	地域特性を活用した 「多能工型」研究支援 人材養成拠点	研究・産学連携 推進機構	2014年度～ 2021年度	<p>2018年度までは補助金を活用し、近隣3大学（宇都宮・茨城・埼玉大）とともに、教育プログラムの開発・運営を行った。本プログラムは、研究プロジェクトの企画立案、立ち上げから成果の創出まで一貫して関与することが可能な「多能工型」の研究支援人材育成を行っている。</p> <p>2019年度以降からは、全国から参加機関を募り、参加費を徴収しながら宇都宮大学・茨城大学と連携し、随時、改善・発展させ「多能工型研究支援人材育成コンソーシアム」として教育プログラムを継続実施している。</p>
卓越研究員事業		理工学府 食健康科学教育 研究センター	2016年度～ 2022年度	国に認定された卓越研究員が、若手研究責任者として研究テーマを自ら設定し研究を遂行できるような自立的研究環境のもと、新たな研究領域に挑戦し、独創的な成果を生み出す。
ダイバーシティ研究 環境実現イニシア ティブ【特色型】		ダイバーシティ 推進センター	2017年度～ 2022年度	女子学生や女性研究者への支援体制を途切れることなく継続し、優秀な女性研究者の獲得と上位職増加への取組、学内外のネットワークの構築とイノベーションの創出、魅力ある研究環境整備と継続させるための好循環の構築を目指す。
多様なニーズに対応 する「がん専門医療 人材（がんプロ フェSSIONナル）」 養成プラン	関東がん専門医療人養 成拠点	医学系研究科	2017年度～ 2021年度	深い学際的教養と幅広い研究的視野を持って、新たな医療価値を創造するがん専門医療人を養成する。
基礎研究医養成活性 化プログラム	病理・法医学教育イノ ベーションハブの構築	医学系研究科	2017年度～ 2021年度	千葉・群馬・山梨の三大学連携で病理・法医学研究医育成の教育プラットフォームを整備する。そして千葉大学の未来医療教育研究機構をモデルに病理・法医学の領域に大学院教育のハブを構築することによって、同領域の医師不足解消を目指す。

地域貢献事業一覧(2019年度)

No.	担当学部等	学科等	担当者	事業名
1	教育学部	教育学部長	齋藤周学部長	教育改革・群馬プロジェクト
2	教育学部 理工学府 保健学研究科	理科教育講座 分子科学部門 生体情報検査学	日置英彰教授 大谷龍二准教授 中村洋介教授 嶋田淳子教授	科学の甲子園群馬県大会の開催
3	教育学部 理工学府	理科教育講座 電子情報部門	青木悠樹准教授 弓仲康史准教授	高崎先端 ICT 教育協議会
4	教育学部	技術教育講座	小熊良一講師	小学校プログラミング教育促進事業
5	社会情報学部	社会情報学科	小竹裕人准教授	学生による学生のための桐生市シティブランディング事業
6	医学系研究科 医学部附属病院	内分泌代謝内科学 患者支援センター	山田正信教授 中島康代助教	群馬県甲状腺疾患対策推進会議の設立 (甲状腺疾患の啓蒙による群馬県民の健康増進)
7	医学系研究科 医学部附属病院	麻酔神経科学 集中治療部	齋藤繁教授 日野原宏准教授	群馬県の豊かな自然環境を生かした健康増進教室
8	医学系研究科	整形外科	田鹿毅講師	群馬県軟式野球選手を対象にした成長期スポーツ障害検診群馬県高校野球投手メディカルチェック
9	医学系研究科	神経精神医学	福田正人教授	ユース世代のこころの健康社会に向けた県内ネットワークの推進
10	医学系研究科	救急医学	青木誠助教	県内消防機関との円滑な診療連携を目指した医療コース作成
11	保健学研究科	看護学	高橋さつき講師 岡美智代教授	腎臓病や生活習慣改善を中心とする健康相談
12	国際センター 国際センター公認学生団体 Le Pont (ルボン)		越智貴子講師	日本人学生と留学生の協働セミナー 富岡市との連携事業:「外国人に選ばれる街づくり」プロジェクト
13	理工学府	知能機械創製部門 電子情報部門	船津賢人准教授 天谷賢児教授 石川赴夫教授 栗田伸幸准教授	連携先地域におけるマイクロ小水力発電プロジェクト
14	理工学府	知能機械創製部門	松原雅昭教授	こども科学体験教室～親子で楽しむ科学体験～
15	理工学府	知能機械創製部門	藤井雄作教授 田北啓洋助教	声かけ機能付e自警ネットカメラによる地域社会の安全・安心の向上
16	総合情報メディアセンター	総合情報メディアセンター長	田中麻里センター長	群馬県の古墳発掘の父・尾崎喜左雄博士展 Part4～群馬県内の古墳発掘・調査の歴史を語る～
17	数理データ科学教育研究センター	数理データ科学教育研究センター長	浅尾高行センター長	ぐんまジュニアICTクラブ(ぐんまプログラミング教育推進協議会での人材育成)
18	生体調節研究所 重粒子線医学研究センター	代謝エピジェネティクス分野 物理学部門	稲垣毅教授 島田博文助教	最先端生命科学セミナー(生命科学のフロンティアへようこそ)

公開講座(2020年度)

Aコース「一般の方」対象

講座名	期間及び時間数	募集人数
企業・産業分析スキル特論(金融ビジネスの基礎から実際まで)	9日間(22.5時間)	28人
社会起業家特論(先端応用情報学特講A・B)	9日間(22.5時間)	26人
データベースに出会う(1)	1日間(3.0時間)	8人
データベースに出会う(2)	1日間(3.0時間)	8人
おとなが学ぶプログラミング!	5日間(12.5時間)	36人
Rで学ぶ統計学の基礎	2日間(12.0時間)	7人
Rによる統計分析入門	2日間(12.0時間)	7人

Bコース「専門技術者等」対象

講座名	期間及び時間数	募集人数
高校生サイエンスインストラクター育成プログラム	2日間(12.0時間)	各25人

※ 2020年度上半期については新型コロナウイルス感染症拡大防止のため公開講座は開催いたしません。

開放講座(2020年度)

Aコース「一般の方」対象

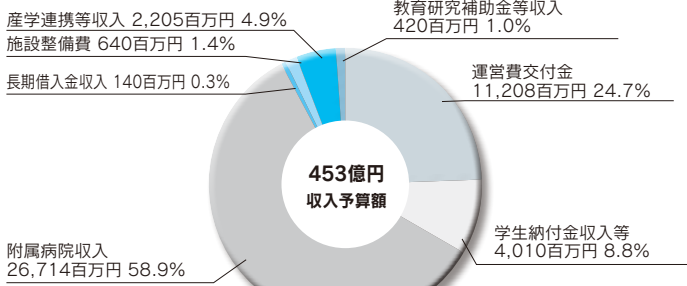
講座名	期間及び時間数	募集人数
世界脳週間2020	1日間(5.0時間)	100人
トークカフェatPLUS+アンカー サイエンスカフェin桐生①～⑥	6日間(9.0時間)	各20人
トークカフェatPLUS+アンカー アートカフェin桐生①～⑥	6日間(9.0時間)	各20人
国際協力、はじめの一歩!	1日間(5.0時間)	20人
電気を安全に扱うために	1日間(2.0時間)	30人
地域の伝統文化に親しもう 人形芝居のたのしみ	1日間(2.5時間)	100人
群馬県立ぐんま天文台連携講座:宇宙観測の最新トピックス	1日間(1.5時間)	250人

Bコース「専門技術者等」対象

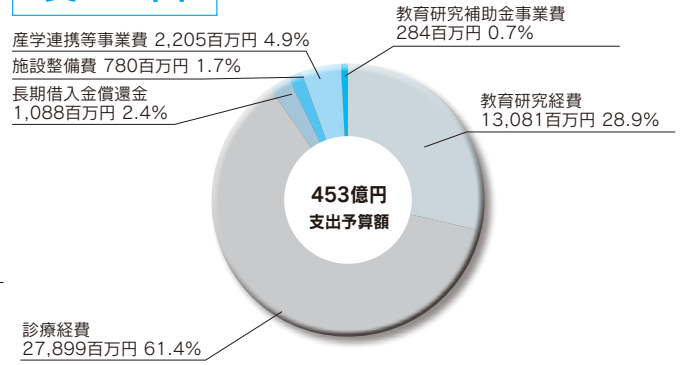
講座名	期間及び時間数	募集人数
プログラミングの日本語	6日間(9.0時間)	各4人
手話で学ぼうろう者学 -電話リレーサービスに求められる課題-	1日間(4.5時間)	人数制限なし
からだであそぼう!! からだでうたおう!! みんなでまほう!!	5日間(12.0時間)	各20人

2020年度収入・支出予算額

収入



支出



研究費等受入状況

科学研究費助成事業 (2020年度)

2020年4月1日現在 (千円)

研究種目	件数	金額
新学術領域研究(計画研究)	1	12,800
新学術領域研究(公募研究)	7	17,300
基盤研究(A)	3	33,000
基盤研究(B)	50	197,600
基盤研究(C)	238	228,950
若手研究(A)	1	4,400
若手研究	122	130,450

研究種目	件数	金額
挑戦的研究(萌芽)	8	13,100
国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))	1	3,700
研究活動スタート支援	4	4,400
奨励研究	4	1,800
特別研究員奨励費	7	6,200
計	446	653,700

厚生労働科学研究費補助金等 (2019年度)

研究事業	件数	金額
厚生労働科学特別研究事業	1	3,116
がん対策推進総合研究事業	1	5,623
難治性疾患政策研究事業	10	3,130
障害者政策総合研究事業	0	0
エイズ対策政策研究事業	1	10,000
肝炎等克服政策研究事業	1	350

研究事業	件数	金額
地域医療基盤開発推進研究事業	2	0
食品の安全確保推進研究事業	1	3,077
医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業	1	800
健康安全・危機管理対策総合研究事業	1	400
計	19	26,496

補助金等 (2019年度)

区分	件数	金額
大学改革推進等補助金	1	3,710
研究拠点形成費等補助金	2	20,690
科学技術人材育成費補助金	2	34,000
感染症予防事業費等国庫負担金	1	25,294
群馬県感染症指定医療機関運営事業費補助金	1	9,258
群馬県地域医療介護総合確保基金事業費補助金	3	8,276
群馬県地域周産期母子医療センター運営事業費補助金	1	36,412

区分	件数	金額
群馬県実践的手術手技向上研修実施機関設備整備事業補助金	1	27,000
群馬県災害医療対策事業費補助金	1	51
医療研究開発推進事業費補助金	2	23,342
群馬県救急医療施設運営費等補助金	1	2,060
日本財団助成金	1	36,970
計	17	227,063

寄附金 (2019年度)

区分	件数	金額
寄附金	1,201	713,140

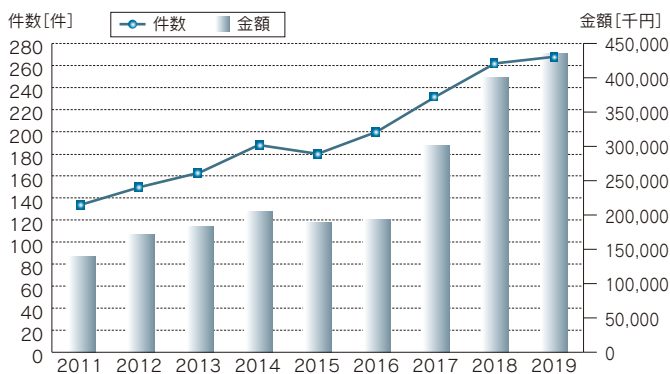
共同研究 (2019年度)

区分	件数	金額
共同研究	268	434,844

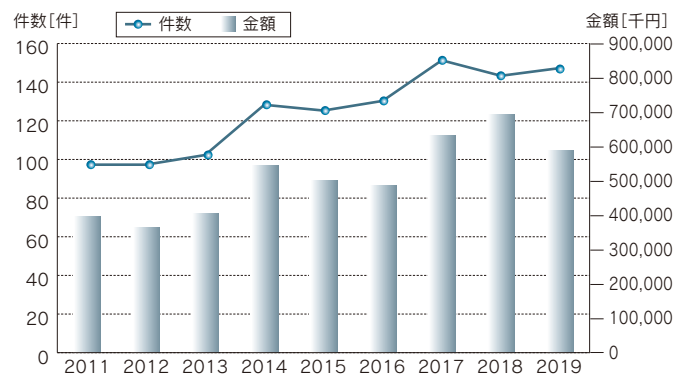
受託研究 (2019年度)

区分	件数	金額
受託研究	147	587,802

民間等との共同研究受入状況



民間等との受託研究受入状況



地区	部局等	土地面積	建物延面積
荒牧地区	前橋市 共同教育学部 大学院教育学研究科 大学院情報学部 大学院社会情報学 総合情報メディアセ ンター 大学教育・学生支 援機構 研究・産学連携推 進機 構 国際セ ン タ 数理データ科学教 育研究センター 食健康科学教育研 究センター ダイバーシティ推 進セ ン タ 事務 局 等	255,763	47,404
昭和地区	前橋市 医 学 院 医 学 系 研 究 科 大 学 院 保 健 学 研 究 科 医 学 部 附 属 病 院 生 体 調 節 研 究 所 重 粒 子 線 医 学 推 進 機 構 未 来 先 端 研 究 機 構 昭 和 地 区 事 務 部 等	161,631	(581) 178,164
若宮地区	前橋市 共 同 教 育 学 部 附 属 幼 稚 園 共 同 教 育 学 部 附 属 小 学 校 共 同 教 育 学 部 附 属 特 別 支 援 学 校	37,990	13,351
上沖地区	前橋市 共 同 教 育 学 部 附 属 中 学 校	37,430	6,700
桐生地区	桐生市 理 工 学 部	103,021	68,067
太田地区	太田市 大 学 院 理 工 学 部	(8,696)	(4,561)
その他の地区 (前橋市、桐生市、渋川市、長野原町)	学 生 寄 宿 舎 等 教 職 員 宿 舎 伊 香 保 研 修 所 北 軽 井 沢 研 修 所	(12,084) 36,199	18,945
合 計		(20,780) 632,034	(5,142) 332,631

※ ()内の数字は借用面積で外数。

学部等所在地分布図



資料編

符号	学部等の名称	所在地	電 話	
A	事務局	総務部	(027)220-7005 (総務係)	
		財務部	(027)220-7044 (総務・監査係)	
		学務部	(027)220-7125 (総務係)	
		研究推進部	〒371-8510 前橋市荒牧町4-2	
		施設運営部	(027)220-7512 (総括係)	
	荒牧地区環境美化室		(027)220-7084 (企画・総務係)	
	共同教育学部		(027)220-7017	
	〃 附属教育実践センター		(027)220-7204 (総務係)	
	〃 附属幼稚園	〒371-0032 前橋市若宮町2-5-3	(027)231-3170	
	〃 附属小学校	〒371-0032 前橋市若宮町2-8-1	(027)231-2804 (代)	
	〃 附属中学校	〒371-0052 前橋市上沖町612	(027)231-3023 (代)	
	〃 附属特別支援学校	〒371-0032 前橋市若宮町2-8-1	(027)232-9758	
	大学院教育学研究科	〒371-8510 前橋市荒牧町4-2	(027)220-7204 (総務係)	
	社会情報学部	〒371-8510 前橋市荒牧町4-2	(027)220-7403 (総務係)	
	大学院社会情報学研究科			
	医学部			
	大学院医学系研究科			
	〃 附属生物資源センター	〒371-8511 前橋市昭和町3-39-22		
	〃 附属薬剤耐性菌実験施設			
〃 附属教育研究支援センター		(027)220-7111 (代)		
〃 附属医学教育センター				
大学院保健学研究科	〒371-8514 前橋市昭和町3-39-22			
〃 附属保健学研究・教育センター				
医学部附属病院	〒371-8511 前橋市昭和町3-39-15			
B F	理工学部	桐生キャンパス 〒376-8515 桐生市天神町1-5-1	(0277)30-1111 (代)	
		太田キャンパス 〒373-0057 太田市本町29-1	(0276)50-2231 (代)	
	理工学府附属元素科学 国際教育研究センター	桐生キャンパス 〒376-8515 桐生市天神町1-5-1	(0277)30-1111 (代)	
A	生体調節研究所	〃 附属生体情報ゲノム リソースセンター	〒371-8512 前橋市昭和町3-39-15	
		〃 附属代謝シグナル 研究展開センター		
		〃 附属拠点研究支援センター		
	総合情報メディアセンター 中央図書館	〒371-8510 前橋市荒牧町4-2	(027)220-7185	
	〃 情報基盤部門	〒371-8510 前橋市荒牧町4-2	(027)220-7391	
	〃 医学図書館	〒371-8513 前橋市昭和町3-39-22	(027)220-7882	
	〃 情報基盤部門昭和分室		(027)220-8105	

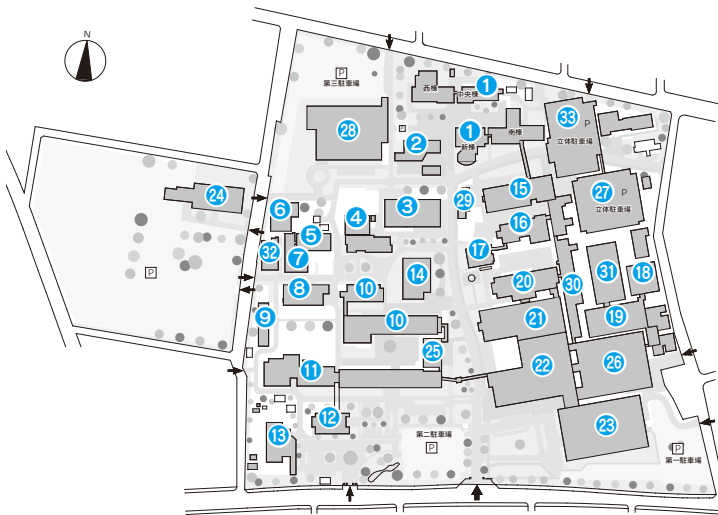
符号	学部等の名称	所在地	電 話
B	総合情報メディアセンター 理工学図書館	〒376-8516 桐生市天神町1-5-1	(0277)30-1079
	〃 情報基盤部門桐生分室		(0277)30-1161
A	大学教育・学生支援機構 大学教育センター		(027)220-7129
	〃 学生支援センター		(027)220-7136
	〃 学生受入センター	〒371-8510 前橋市荒牧町4-2	(027)220-7149
	〃 健康支援総合センター		(027)220-7163
	〃 教育改革推進室		(027)220-7123
B	研究・産学連携推進機構 研究・産学連携戦略本部	〒371-8510 前橋市荒牧町4-2	(027)220-7111 (代)
	〃 U R A 室		
	〃 産学連携ワンストップサービスオフィス		
B	〃 高度研究推進・支援部門 高度研究戦略室	〒376-8515 桐生市天神町1-5-1	(0277)30-1111 (代)
	〃 機器分析センター		
A	〃 高度人材育成部門 高度人材育成センター		
	〃 研究支援人材育成コンソーシアム室	〒371-8510 前橋市荒牧町4-2	(027)220-7111 (代)
B	〃 産学連携・知的財産部門 産学連携・知的財産活用センター	〒376-8515 桐生市天神町1-5-1	(0277)30-7111 (代)
	〃 リスクマネジメント室		
A	〃 次世代モビリティ社会実装研究センター	〒371-8510 前橋市荒牧町4-2	(027)220-7443
	〃 多職種連携教育 研究研修センター	〒371-8511 前橋市昭和町3-39-22	
	〃 重粒子線医学推進機構 重粒子線医学研究センター	〒371-8511 前橋市昭和町3-39-15	(027)220-7111 (代)
	〃 重粒子線医学センター	〒371-8511 前橋市昭和町3-39-22	
B	〃 未来先端研究機構	〒371-8511 前橋市昭和町3-39-22	
	〃 国際センター		(027)220-7628
	〃 数理データ科学教育研究センター	〒371-8510 前橋市荒牧町4-2	(027)220-7633
A	〃 食健康科学教育研究センター		
	〃 共同利用設備総括センター	〒376-8515 桐生市天神町1-5-1	(0277)30-1111 (代)
C	〃 ダイバーシティ推進センター	〒371-8510 前橋市荒牧町4-2	(027)220-7011 (代)
	〃 伊香保研修所	〒377-0102 渋川市伊香保町 伊香保字香湯14-1	(0279)72-4605
D	〃 北軽井沢研修所	〒377-1412 吾妻郡長野原町北軽井沢 字南木山大楢2032-242	(0279)84-2273

荒牧地区 【所在地：前橋市荒牧町4-2】



- ① 共同教育学部 附属教育実践センター、食健康科学教育研究センター
- ② 総合情報メディアセンター（中央図書館、情報基盤部門）
- ③ 教職員等宿舎
- ④ 基幹棟（中会議室他）
- ⑤ 健康支援総合センター
- ⑥ 荒牧地区環境美化室
- ⑦ 事務局、研究・産学連携推進機構
- ⑧ 守衛所
- ⑨ 社会情報学部
- ⑩ 学生センター、大学教育・学生支援機構
- ⑪ 数理データ科学教育研究センター、ダイバーシティ推進センター
- ⑫ 教養大講堂
- ⑬ 第一・第二体育館、武道館
- ⑭ 大学会館「アザレア」（ミュージックホール、国際センター、アトリウムラウンジ）
- ⑮ キャリアサポート室
- ⑯ 体育管理施設
- ⑰ 課外活動共用施設
- ⑱ 合宿研修施設
- ⑲ 憩いの広場
- ⑳ 中央モール
- ㉑ 遊歩道
- ㉒ 次世代モビリティ社会実装研究センター

昭和地区 【所在地①：前橋市昭和町3-39-15（医学部附属病院・生体調節研究所ほか）】 【所在地②：前橋市昭和町3-39-22（医学部ほか）】



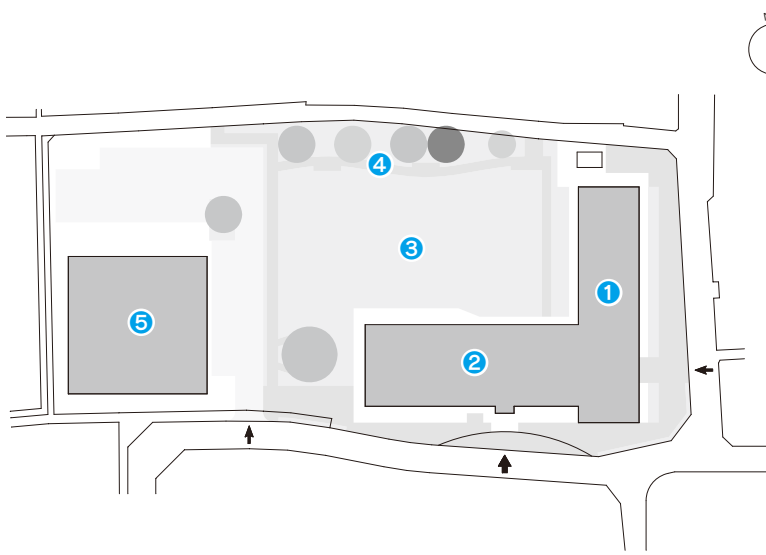
- ① 医学部保健学科
- ② 学生食堂
- ③ 中央機械室
- ④ 生体調節研究所、代謝シグナル研究展開センター 拠点研究支援センター
- ⑤ RI研究棟
- ⑥ 特高受電室
- ⑦ 生体情報ゲノムリソースセンター
- ⑧ 生物資源センター（1）
- ⑨ 生物資源センター（2）
- ⑩ 医学部（臨床研究棟）（1F：黒梅ホール）
- ⑪ 医学部（基礎医学棟）
- ⑫ 基礎講義棟
- ⑬ 刀城会館（記念会館）
- ⑭ 総合情報メディアセンター-医学図書館、情報基盤部門昭和分室
- ⑮ 共用施設棟
- ⑯ 臨床講堂
- ⑰ 特別診療棟
- ⑱ 診療棟1
- ⑲ 診療棟2
- ⑳ 診療棟3
- ㉑ 北病棟
- ㉒ 南病棟
- ㉓ 外来診療棟
- ㉔ 課外活動施設、体育館
- ㉕ プロジェクト棟（1F：石井ホール、4～5F：重粒子線医学研究センター）
- ㉖ 中央診療棟
- ㉗ 立体駐車場 南
- ㉘ 重粒子線医学センター（重粒子線照射施設）
- ㉙ 院内保育所（ゆめのこ保育園）
- ㉚ アメニティモール
- ㉛ 東棟
- ㉜ 発電機室
- ㉝ 立体駐車場 北

桐生地区 【所在地：桐生市天神町1-5-1】



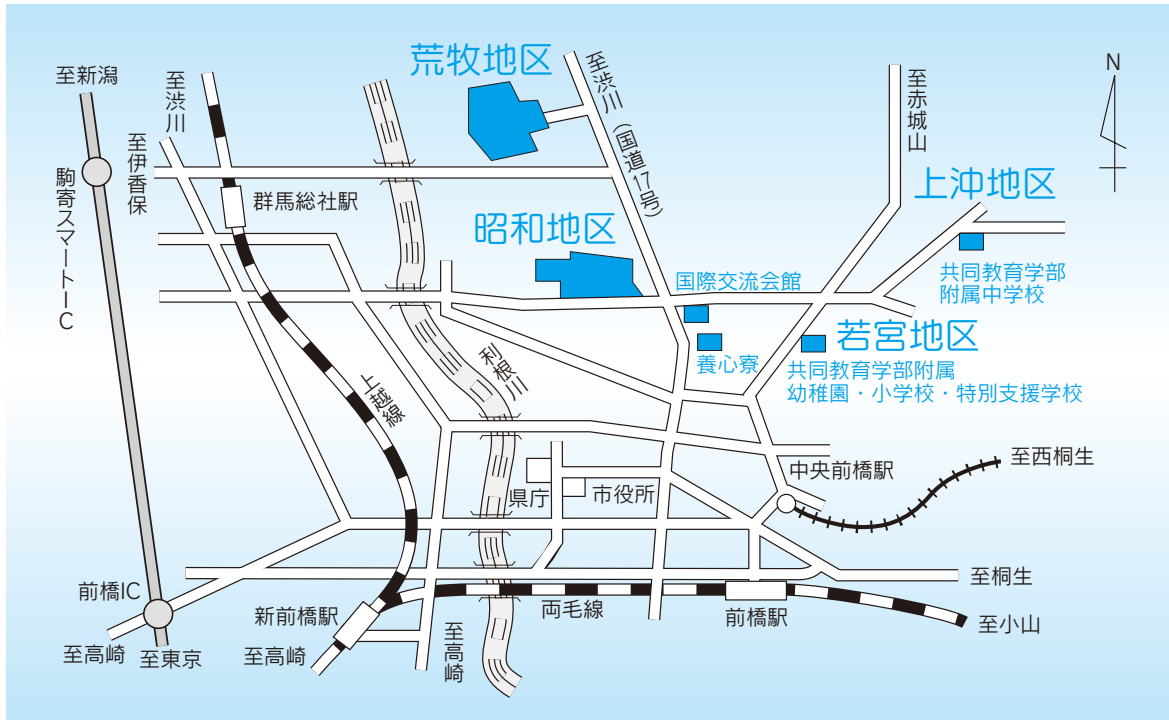
- ① A棟 (研究・産学連携推進機構)
- ② B棟 (研究・産学連携推進機構)
- ③ C棟 (研究・産学連携推進機構)
- ④ 同窓記念会館
- ⑤ 車庫
- ⑥ 工学部会館
- ⑦ 環境保全支援センター
- ⑧ 7号館
- ⑨ 実験棟
- ⑩ 1号館
- ⑪ 講義棟
- ⑫ 4号館
- ⑬ 5号館
- ⑭ 総合情報メディアセンター理工学図書館、情報基盤部門桐生分室
- ⑮ プロジェクト棟
- ⑯ 電子計算機棟
- ⑰ 6号館
- ⑱ 2号館
- ⑲ 基幹棟
- ⑳ 3号館
- ㉑ 8号館N棟
- ㉒ 8号館S棟
- ㉓ 危険薬品庫
- ㉔ 特別実験棟
- ㉕ RI実験施設 1、2
- ㉖ 原動機棟
- ㉗ 研究推進支援センター
- ㉘ 医理工共用研究棟
- ㉙ 体育館
- ㉚ 合宿所
- ㉛ 課外活動施設
- ㉜ 総合研究棟、機器分析センター
- ㉝ 総合情報メディアセンター (情報基盤部門桐生分室)

太田地区 【所在地：太田市本町29-1】



- ① 大学院研究棟
- ② 産学研究棟
- ③ 交流広場
- ④ 散策路
- ⑤ ものづくりイノベーションセンター

荒牧、昭和、若宮、上沖地区



荒牧地区

- JR
JR両毛線にて前橋駅下車、北方へ8Km
JR上越線・吾妻線にて新前橋駅下車、北方へ8.4Km
- バス
JR前橋駅北口2番乗り場（関越交通バス）
 - ・群馬大学荒牧経由渋川市内循環渋川駅行、小児医療センター行「群馬大学荒牧」下車（所要時間約28分）
 - ・渋川駅行、渋川市内循環渋川駅行「前橋自動車教習所前」下車（所要時間約25分+徒歩10分）
- JR新前橋駅東口乗り場（関越交通バス）
 - ・群大病院・群馬大学荒牧経由総合スポーツセンター行「商工連会館前」下車（所要時間約32分+徒歩5分）

若宮地区

- JR
JR両毛線にて前橋駅下車、北方へ2Km
- バス
JR前橋駅北口3番乗り場
 - ・総合スポーツセンター方面行、湯の道利久行、群馬総社駅行「附属小前」下車（所要時間約8分）（日本中央バス）
- JR前橋駅北口6番乗り場
 - ・富士見温泉行「附属小前」下車（所要時間約8分）（関越交通バス・日本中央バス）
 - ・国立赤城青少年交流の家行「附属小前」下車（所要時間約9分）（関越交通バス）
 - ・嶺公園行、小坂子行、荻窪公園行「附属小前」下車（所要時間約6分）（永井バス）

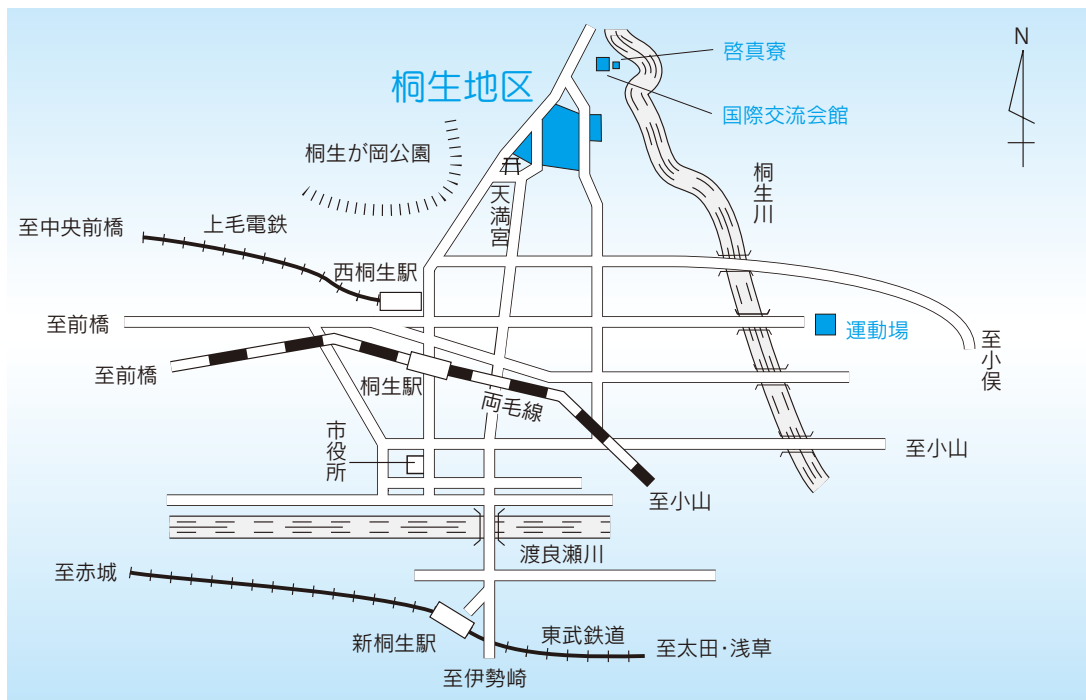
昭和地区

- JR
JR両毛線にて前橋駅下車、北方へ4Km
JR上越線・吾妻線にて新前橋駅下車、北方へ5.1Km
- バス
JR前橋駅北口2番乗り場（関越交通バス）
 - ・全線「群大病院入口」下車（所要時間約13分+徒歩6分）
 - ・群大病院行・群大病院経由群馬大学荒牧行、群大病院・南橋団地経由群馬大学荒牧行、群大病院経由南橋団地行「群大病院」下車（所要時間約15分）
- JR前橋駅北口3番乗り場（日本中央バス）
 - ・総合スポーツセンター行、湯の道 利休行「群大病院」下車（所要時間約15分）

上沖地区

- JR
JR両毛線にて前橋駅下車、北方へ4Km
- バス
JR前橋駅北口6番乗り場
 - ・富士見温泉行「北代田」下車（所要時間約9分+徒歩15分）（関越交通バス）
 - ・嶺公園行「県営住宅前」下車（所要時間約11分+徒歩10分）（永井バス）

桐生地区



桐生地区

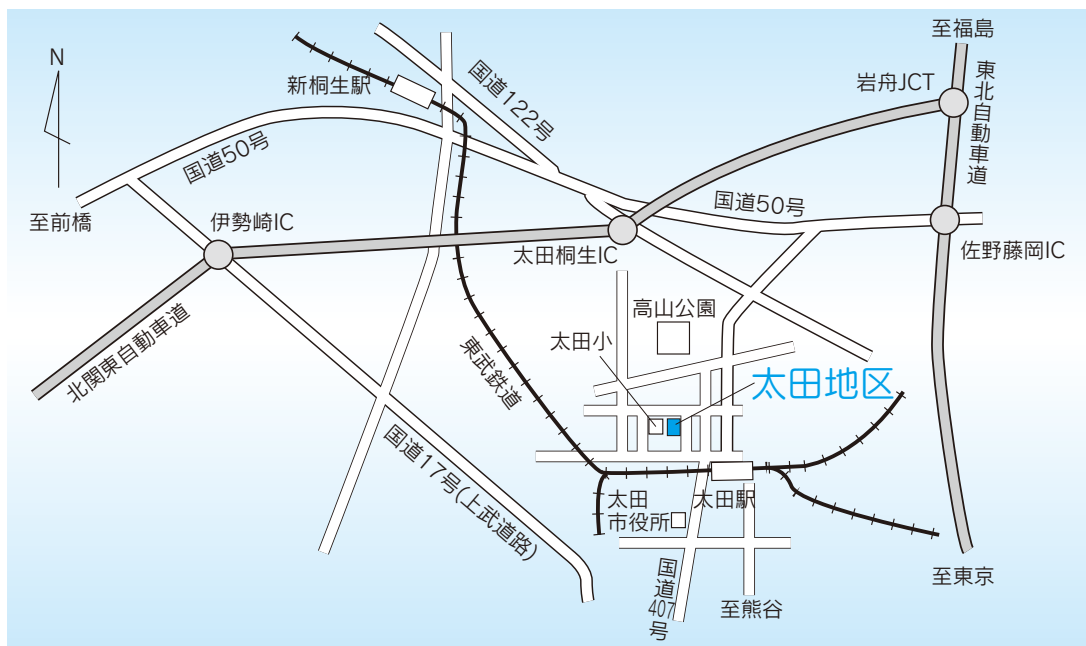
JR

JR両毛線にて桐生駅下車、北方へ2.5Km
東武桐生線にて新桐生駅下車、北方へ4.1Km

バス

- JR 桐生駅北口乗り場（おりひめバス）
- ・桐生女子高前行・上菱団地行・梅田ふるさとセンター前行「群馬大学桐生正門前」下車（所要時間約7分）
 - ・菱線右回り「群馬大学桐生東門前」下車（所要時間約7分）
- 東武新桐生駅乗り場（おりひめバス）
- ・桐生女子高前・上菱団地行「群馬大学桐生正門前」下車（所要時間約15分）

太田地区



太田地区

- 東武鉄道太田駅北口下車、徒歩約10分（市立太田小学校となり）
- 北関東自動車道 太田桐生ICから約10分

「ああ建学の」

■詞：梶田 一之 ■曲：相沢 聡 ■編曲：塚本 靖彦

- | | |
|---|---|
| <p>1. たからかに果てなく響く歌声は
青春の歡喜の調べ
山あをく水きよら
ああ秀麗の国土とあかるく
わが希望かがやく姿よ
群馬大学 群馬大学
われらの学苑</p> | <p>2. たくましく生気に充つる歌声は
青春の至情の調べ
血はたぎり 胸をどり
ああ将来の文化をきずくと
わが理想もえたつ思いよ
群馬大学 群馬大学
われらの学苑</p> |
| <p>3. とうとうと^{だいち}大地をゆする歌声は
青春の叡智の調べ
^{たま}魂さやか ^{まへ}眉さとく
ああ^{しんおう}深奥の真理をみつむる
わが決意ゆるがぬ心よ
群馬大学 群馬大学
われらの学苑</p> | <p>4. すこやかに若やぎはづむ歌声は
青春の^{いのち}生命の調べ
^{あけ}暁しるし陽はいでて
ああ建学の理念のみちびく
わが前途あふるる光よ
群馬大学 群馬大学
われらの学苑</p> |



国立大学法人群馬大学徽章

昭和24年10月1日制定

周囲は群馬県の象徴である名勝赤城、榛名、妙義の上毛三山を浮彫りさせて大学を囲み、群馬大学の象徴としています。



国立大学法人群馬大学ロゴマーク

平成18年4月1日制定

群馬大学の英頭文字「G」をモチーフに緑と青で豊かな自然環境を示し、学生の成長と活躍をイメージして、新しい未来への創造と、社会へ貢献する大学の存在感を表現しています。



認証評価認定マーク

平成28年3月24日認定

独立行政法人大学評価・学位授与機構（現：大学改革支援・学位授与機構）による平成27年度実施の大学機関別認証評価において、「本学は、大学設置基準をはじめ関係法令に適合し、大学評価・学位授与機構が定める大学評価基準を満たしている」と評価されました。



群馬大学公式 HP



Facebook



LINE



Instagram



Twitter



YouTube

発行日

2020年7月発行

編集

国立大学法人群馬大学広報本部

〒371-8510 前橋市荒牧町四丁目2番地

TEL.027-220-7010、7011、7018 FAX.027-220-7012

URL:<https://www.gunma-u.ac.jp>



この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

